

平成25年度
武蔵野市独居高齢者実態調査
報 告 書

平成26年6月
武 蔵 野 市

■ 平成25年度武蔵野市独居高齢者実態調査報告書 ■

目 次

■ 第1章 ■ 調 査 概 要	1
1. 目的.....	3
2. 調査概要.....	3
(1) 対象者.....	3
(2) 調査方法.....	3
(3) 調査期間.....	3
(4) 調査人数.....	3
(5) 緊急連絡先情報提供について	4
(6) 民生委員からの情報提供について.....	4
3. 報告書のみかた.....	5
■ 第2章 ■ 調査結果の概要	7
1. 調査の基礎データ	9
(1) 回答者の基本属性.....	9
(2) 要介護認定の有無と要介護認定の結果	9
2. 住まいについて	9
(1) 介護が必要となったときの住まい	9
(2) 今の住まいへの居留意向と住み替えたい場合の理由	10
3. 不安・悩み・心配事について	10
(1) 不安・悩み・心配事とその相談相手	10
4. 市への要望について	11
(1) 市の高齢者施策として充実してほしいもの	11
■ 第3章 ■ 集計及び分析	13
1. 調査の基礎データ	15
(1) 回答者の基本属性.....	15
(2) 子どもの有無(項目1).....	21
(3) 要介護認定について(項目4).....	22
(4) 住宅の状況(項目6)	26
(5) 日常の交流相手(項目3)	27
(6) 普段よく過ごす場所(項目2).....	33

2. 住まいについて	37
(1) 介護が必要になったときの住まい(項目5)	37
(2) 今の住まいへの居住意向(項目7)	40
3. 不安・悩み・心配事について	49
(1) 不安・悩み・心配事(項目8)	49
(2) 不安・悩み・心配事の相談相手(項目9)	53
4. 市への要望について	56
(1) 市の高齢者施策として充実してほしいもの(項目10)	56
(2) 自由意見(項目11)	61
5. 調査を終えて	67

■ 資料編 ■

69

1. 調査票	71
(1) 第一次調査(郵便による調査)調査票	71
(2) 第二次調査(民生委員による訪問調査)調査票	73

■ 第1章 ■

調 査 概 要

1. 目的

市内在住の独居高齢者の数や実態を把握し、要援護者に対して在宅福祉サービスの充実を図る。また、高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画策定や地域包括ケアシステムを構築するための基礎資料とする。

2. 調査概要

(1) 対象者

平成26年2月1日現在、住民基本台帳における65歳以上単身世帯の高齢者

(2) 調査方法

① 第一次調査(郵便による調査)

上記対象者に対して、封書によるアンケート調査を行い、実際に1人で住んでおり、かつ民生委員による訪問調査にご協力いただける方を抽出した(シルバーピア、老人ホーム等施設入所者など、あらかじめ一人暮らし、または調査対象外とわかる者には郵送しない)。

② 第二次調査(民生委員による訪問調査)

第一次調査による調査協力者及びシルバーピア入居者に対し、民生委員のご協力により訪問調査を行った(ただし、シルバーピア入居者は、管理人を経由した調査)。

(3) 調査期間

① 第一次調査

平成25年12月10日～平成25年12月27日

② 第二次調査

平成26年2月28日～平成26年3月31日

(4) 調査人数

① 第一次調査

対象者数 9,423人(住民基本台帳上の数)

② 第二次調査

対象者数 2,671人(第一次調査時に一人暮らしで訪問調査に協力すると回答した数)

訪問調査数 2,445人(訪問調査を行った結果、調査票を回収できた数)

※内有効回答票 2,434票

【 対象者内訳表 】

独居		親族と同居	施設入所 入院中等	その他	未回収	合 計
調査協力	調査辞退					
2,445 人	1,782 人	2,255 人	822 人	279 人	1,840 人	9,423 人
25.9%	18.9%	23.9%	8.7%	3.0%	19.5%	100.0%

※その他は、郵便未着、調査期間中死亡・転出等

(5) 緊急連絡先情報提供について

第一次調査で一人暮らしと回答した方に、市へ緊急連絡先の情報提供をお願いした。

【 情報提供者内訳表 】

	情報提供あり		情報提供なし		合 計
独居 - 調査協力	2,332 人	95.4%	113 人	4.6%	2,445 人
独居 - 調査辞退	900 人	50.5%	882 人	49.5%	1,782 人
合 計	3,232 人	76.5%	995 人	23.5%	4,227 人

(6) 民生委員からの情報提供について

第二次調査で民生委員が訪問を行った際に、対象者の様子で気になること、また対象者からの質問、要望など、市へ特に知らせた方が良い事項について連絡票に記載し報告してもらい、後日担当部署が対応した。

一番多かった内容は「様子が心配なので訪問してもらいたい（情報提供）」で、件数は22件だった。

【 連絡票集計表 】

対応課	主な内容	件 数
高齢者支援課 (地域包括支援センター、 在宅介護支援センター含む)	様子が心配なので訪問してもらいたい（情報提供） 緊急通報装置貸与について レモンキャブについて 介護認定について	32
他 課	生活保護について、公営住宅入居について	11
その他	訪問できなかったなどの市への連絡事項	39

3. 報告書のみかた

◇ 回答者数について

- 図表中の「回答者数」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（％）の母数をあらわしている。

◇ 図表の単位について

- 本報告書に掲載した図表の数値は、特にことわりのない限り回答率（単位：％）をあらわし、（ ）内の数値は回答者数（単位：人）をあらわしている。
- 回答率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100％にならないことがある。

◇ 図表における選択肢等の記載について

- 図表の記載にあたっては、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。簡略化していない選択肢は、資料編の調査票を参照のこと。

◇ 単純集計について

- 回答結果の全体の傾向を捉えるため、単純集計を行い、その特徴等を記述している。
- 単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を回答率（％）の高いものから低いものへと並び替えて表示している場合がある。

◇ クロス集計について

- クロス集計表の記載にあたっては、分析の柱の項目の「無回答」は掲載を省略している。

◇ 比較について

- 選択肢等が同じ設問については、平成20年・平成22年度調査との比較を行っている。

◇ 平成25年度「高齢者実態調査」「要支援・要介護高齢者実態調査」について

- 同時期に実施した調査で、報告書中一部結果の比較を行っている。

〔 調査概要 〕

調 査 目 的 : 「武蔵野市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画」を策定(平成26年度)するにあたりその基礎資料を得るため、高齢者の生活実態、介護保険事業の利用意向、その他高齢者施策全般に係る意見・要望等を把握する。

調査対象者：①市内在住の要介護認定を受けていない 65 歳以上市民 1,500 件
 ②市内在住の要介護認定を受けている 65 歳以上市民 1,500 件
 ※ともに平成 25 年 11 月 1 日時点の住民基本台帳より無作為抽出

調 査 期 間：平成 25 年 12 月 4 日～12 月 18 日

調 査 方 法：郵送配布・郵送回収

〔 調査結果 〕

調査種類	配布件数	回収件数	回収率
①武蔵野市高齢者実態調査	1,500	1,141	76.1%
②武蔵野市要支援・要介護 高齢者実態調査	1,500	942	62.8%
合 計	3,000	2,083	69.4%

※詳細は「武蔵野市高齢者福祉計画・第 6 期介護保険事業計画策定のための武蔵野市高齢者実態調査 武蔵野市要支援・要介護高齢者実態調査報告書」参照のこと

■ 第2章 ■

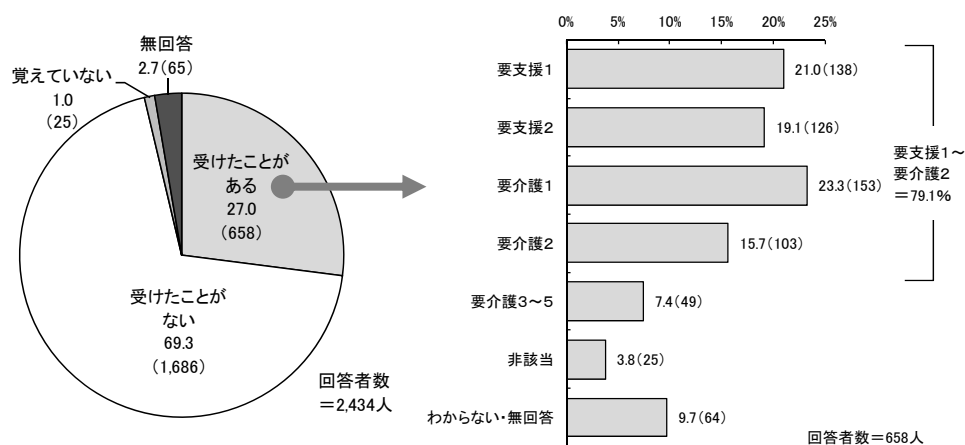
調査結果の概要

1. 調査の基礎データ

(1) 回答者の基本属性

【全 体】	2,434 人
【性 別】	男性:26.5%(645 人) 女性:73.5%(1,789 人)
【平均年齢】	78.5 歳
【子どもの有無】	いる:56.7%(1,381 人) いない:42.1%(1,024 人) 無回答:1.2%(29 人)
【住宅の状況】	持ち家(一戸建て、マンションなど):55.4%(1,349 人) 公的住宅(都営・市営・UR・シルバーピア等):25.3%(615 人) 民間賃貸住宅:18.0%(438 人) 無回答・その他:1.4%(32 人)

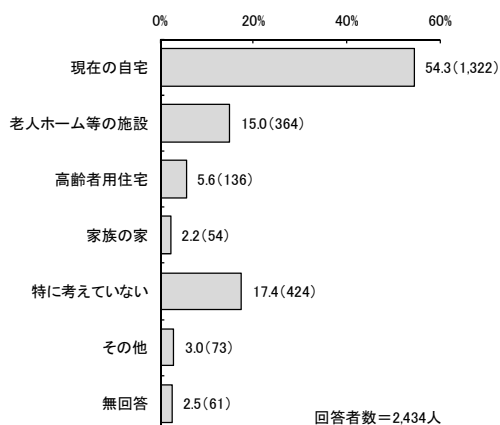
(2) 要介護認定の有無(単数回答)と要介護認定の結果(単数回答)



要介護認定を「受けたことがない」人は約 7 割を占め、要介護認定を「受けたことがある」約 3 割の人のうち、79.1%は比較的介護度の軽い要支援 1～要介護 2 である。

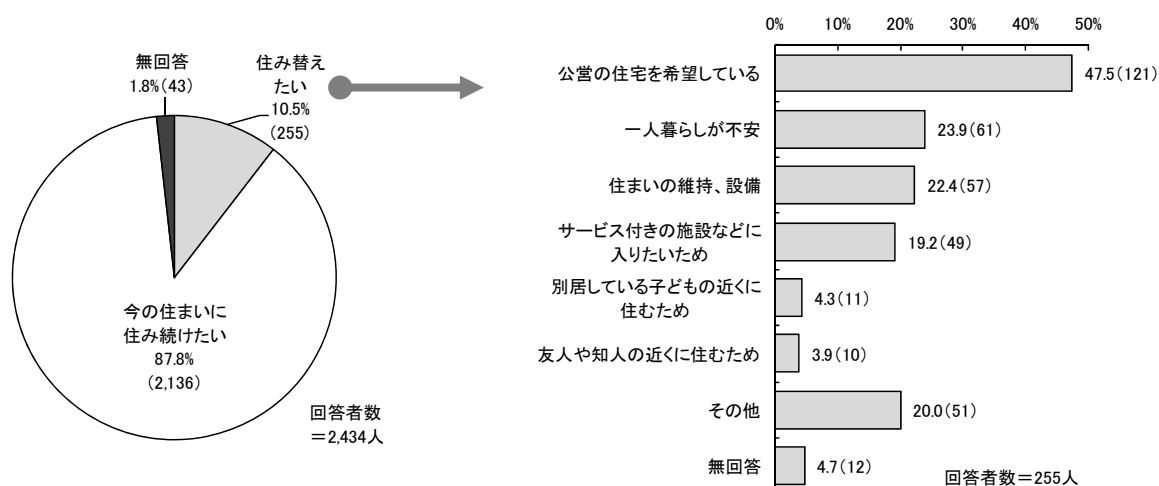
2. 住まいについて

(1) 介護が必要となったときの住まい(単数回答)



介護が必要となったときの住まいについて希望をきいたところ、「現在の自宅」が 54.3% ともっとも割合が高くなっている。

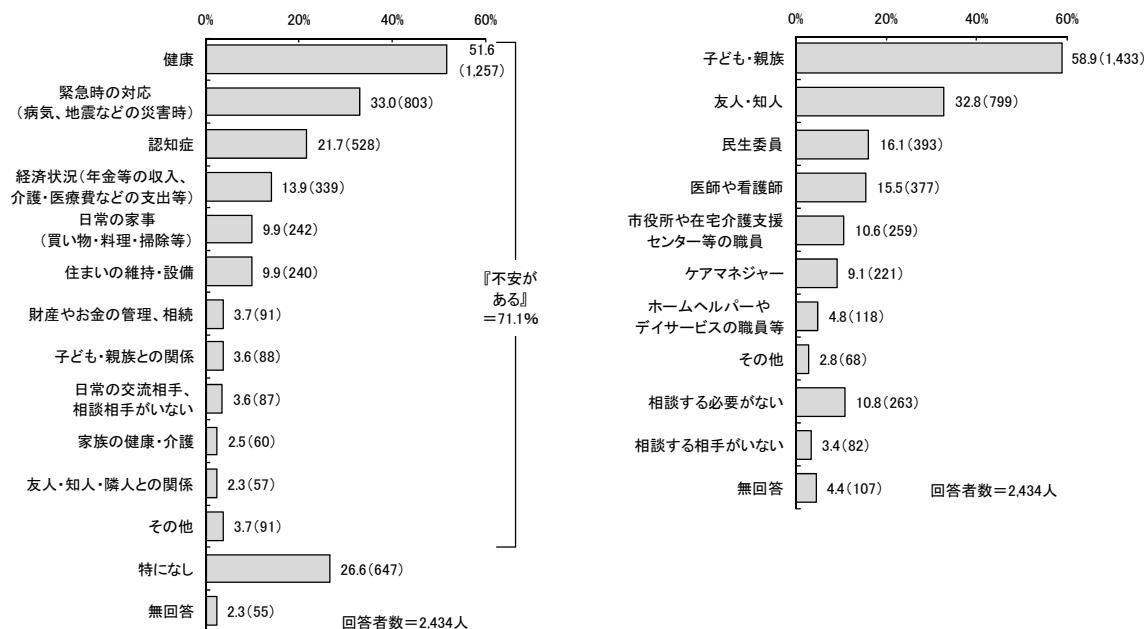
(2) 今の住まいへの居住意向(単数回答)と住み替えたい場合の理由(複数回答)



今の住まいへの居住意向については、9割近くが「今の住まいに住み続けたい」と、住み替えを希望していない。また、住み替えを希望している人の住み替えたい理由については、「公営の住宅を希望している」が約半数を占めており、そのうち約8割は民間賃貸住宅に居住している(47ページ参照)。

3. 不安・悩み・心配事について

(1) 不安・悩み・心配事(複数回答)とその相談相手(複数回答)

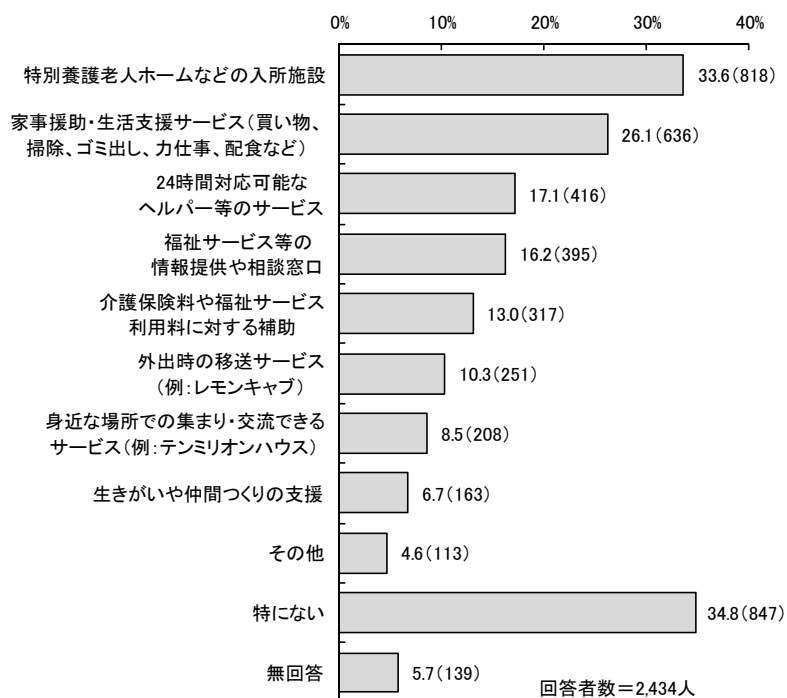


不安・悩み・心配事は「健康」51.6%、「緊急時の対応(病気・地震などの災害時)」33.0%の順になっている。次いで、回答者の自立度が高いためか、「特になし」が26.6%である。

不安・悩み・心配事の相談相手は、「子ども・親族」58.9%、「友人・知人」32.8%である。また、「相談する相手がいらない」割合は3.4%と低く、独居ではあるが周囲に相談相手がいることが示唆される。

4. 市への要望について

(1) 市の高齢者施策として充実してほしいもの(複数回答)



市の高齢者施策として充実してほしいものは「特にない」34.8%、「特別養護老人ホームなどの入所施設」33.6%、「家事援助・生活支援サービス(買い物、掃除、ゴミ出し、力仕事、配食など)」26.1%の順に割合が高くなっている。

住宅の状況別にみると(58 ページ参照)、住宅の状況に関わらず「特別養護老人ホームなどの入所施設」を希望している人は3割を超え、一定の要望があることが示唆される。

○「特にない」回答者について

要介護認定の有無別にみると(60 ページ参照)、「要介護認定を受けたことがない」割合が回答者の7割を占め、自立度の高い層が回答していることが示唆される。

○「特別養護老人ホームなどの入所施設」回答者について

介護が必要となったときの住まい別にみると(60 ページ参照)、介護が必要となった際は「現在の自宅」を希望している人の割合が高い。

■ 第 3 章 ■

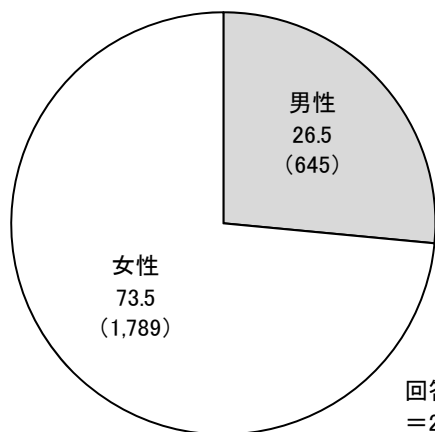
集計及び分析

1. 調査の基礎データ

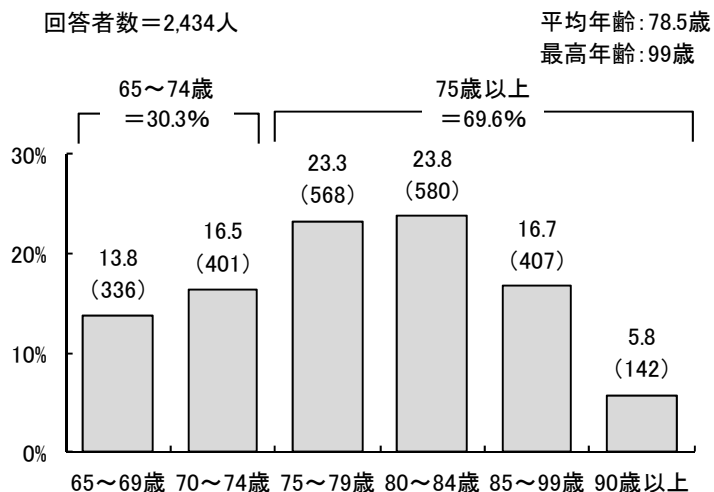
(1) 回答者の基本属性

① 性別と年齢

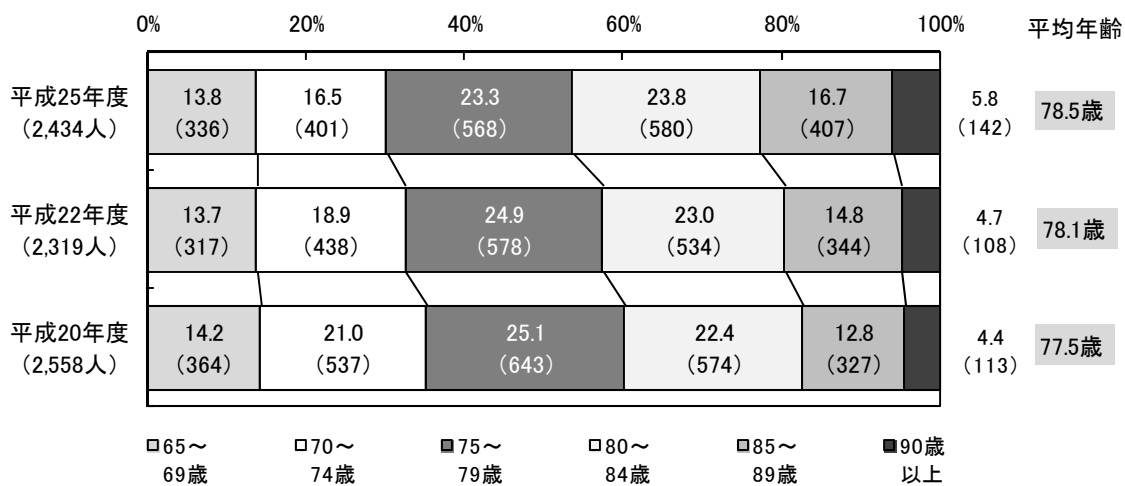
図表 3-1 性別(単数回答)



図表 3-2 年齢(単数回答)



図表 3-3 平成 20・22 年度調査との比較



本調査回答者の性別は、「女性」が 73.5%、「男性」が 26.5%となっている。

また、年齢は 65～74 歳の高齢者が 30.3%であるのに対し、75 歳以上の高齢者が 69.6%を占める。

過去調査との比較では、平成 20 年度調査から 75 歳以上の高齢者が 4.9 ポイント増加しており、平均年齢が高くなっている。

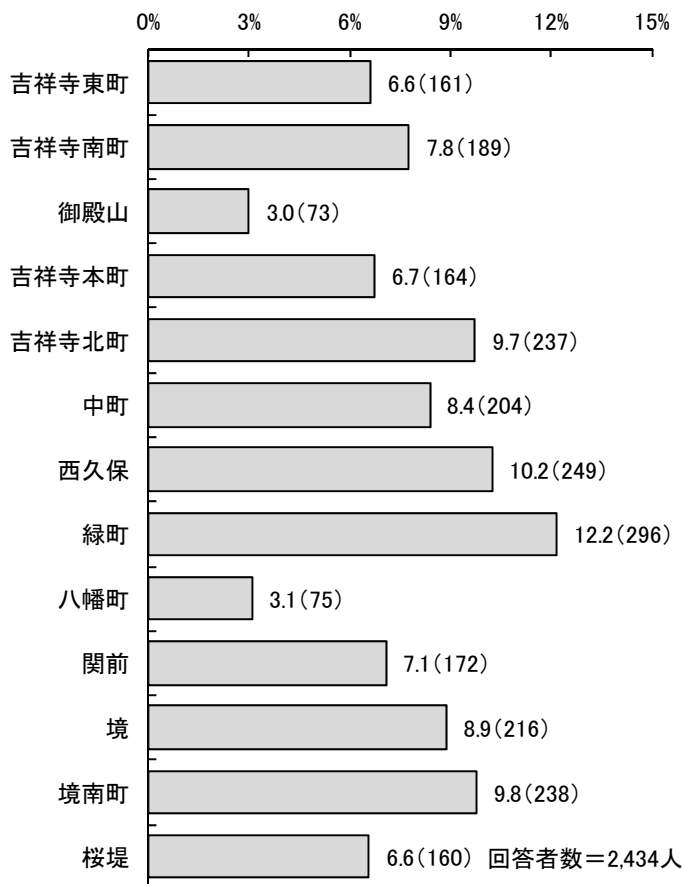
図表 3-4 年齢

			合 計	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳 以上	平均 年齢
全 体	人		2,434	336	401	568	580	407	142	78.5 歳
	%		100.0	13.8	16.5	23.3	23.8	16.7	5.8	
性 別	男性	人	645	166	125	139	119	71	25	75.9 歳
		%	100.0	25.7	19.4	21.6	18.4	11.0	3.9	
	女性	人	1,789	170	276	429	461	336	117	79.4 歳
		%	100.0	9.5	15.4	24.0	25.8	18.8	6.5	

性別では、男性は「65～69 歳」25.7%がもっとも高く、女性は「80～84 歳」25.8%がもっとも高くなっている。平均年齢は男性 75.9 歳、女性 79.4 歳である。

② 居住地域

図表 3-5 居住地域(単数回答)

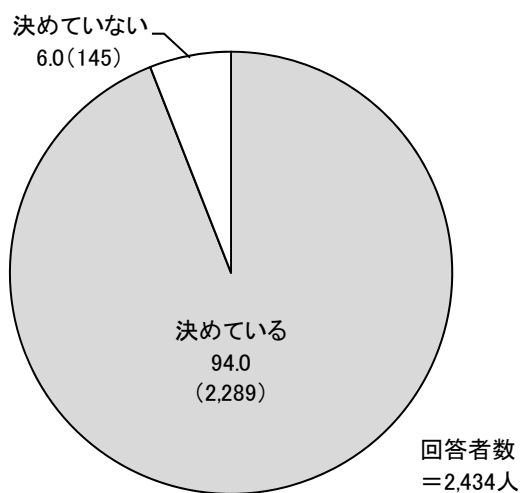


居住地域は、「緑町」12.2%、「西久保」10.2%、「境南町」9.8%、「吉祥寺北町」9.7%の順になっている。

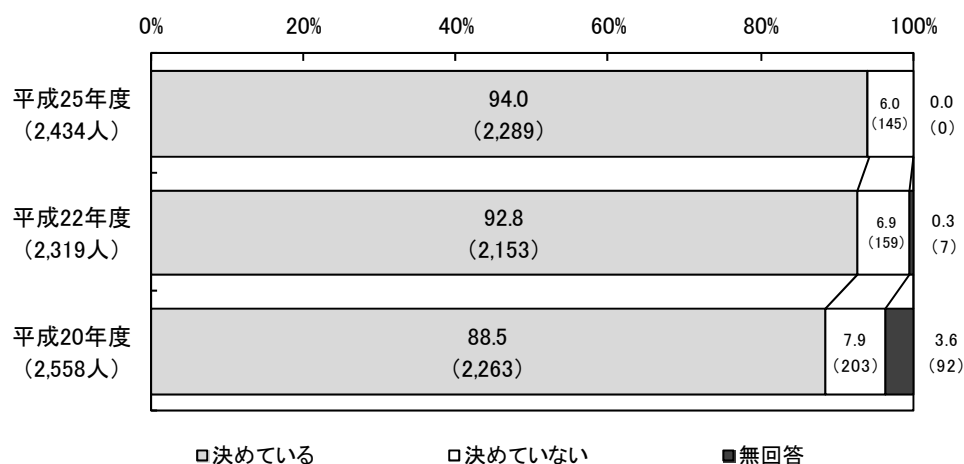
③ 緊急連絡先

緊急時の連絡先は決めていますか。

図表 3-6 緊急連絡先(単数回答)



図表 3-7 平成 20・22 年度調査との比較



緊急連絡先についてみると、緊急時の連絡先を「決めている」割合は94.0%であり、9割を超えている。一方、「決めていない」は6.0%である。

過去調査との比較では、平成20年度調査から「決めている」は5.5ポイント増加、「決めていない」は1.9ポイント減少している。

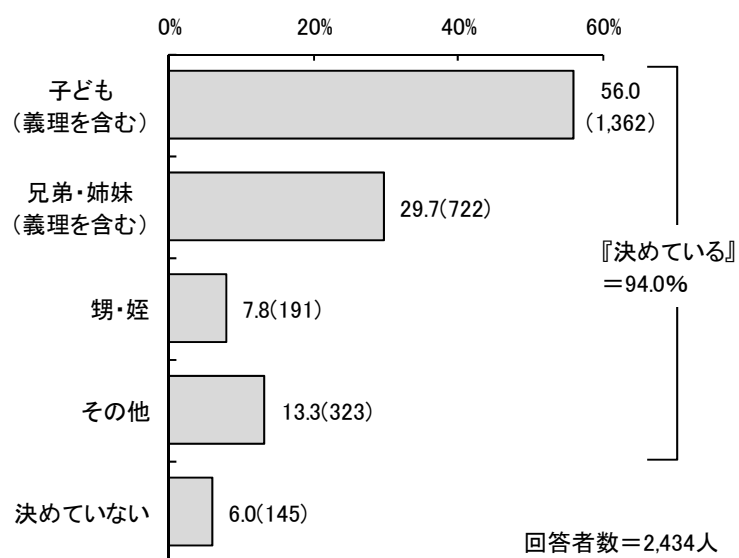
図表 3-8 緊急連絡先

			合 計	決めて いる	決めて いない
全 体		人	2,434	2,289	145
		%	100.0	94.0	6.0
性 別	男性	人	645	569	76
		%	100.0	88.2	11.8
	女性	人	1,789	1,720	69
		%	100.0	96.1	3.9
年 齢 別	65～69 歳	人	336	299	37
		%	100.0	89.0	11.0
	70～74 歳	人	401	365	36
		%	100.0	91.0	9.0
	75～79 歳	人	568	533	35
		%	100.0	93.8	6.2
	80～84 歳	人	580	561	19
		%	100.0	96.7	3.3
	85～89 歳	人	407	392	15
		%	100.0	96.3	3.7
	90 歳以上	人	142	139	3
		%	100.0	97.9	2.1

性別では、女性は「決めている」が 96.1%であるのに対し、男性の「決めている」は 88.2%であり、男性が 7.9 ポイント低い。

年齢別では、74 歳以下において「決めている」割合が、他の年齢に比べて低くなっている。

図表 3-9 緊急連絡先の相手(複数回答)



※『決めている』=100%－「決めていない」

緊急連絡先の相手についてみると、「子ども（義理を含む）」が56.0%と最も高く、次いで「兄弟・姉妹（義理を含む）」が29.7%である。

図表 3-10 緊急連絡先の相手

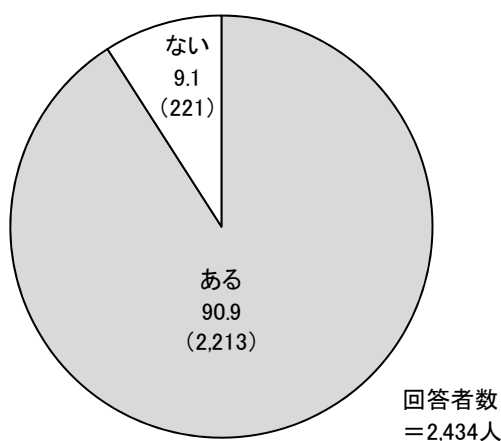
			合 計	子ども (義理を 含む)	兄弟・ 姉妹 (義理を 含む)	甥・姪	その他	決めて いない
全 体		人	2,434	1,362	722	191	323	145
		%	100.0	56.0	29.7	7.8	13.3	6.0
子どもの有無別	いる	人	1,381	1,237	142	28	108	38
		%	100.0	89.6	10.3	2.0	7.8	2.8
	いない	人	1,024	115	573	155	209	106
		%	100.0	11.2	56.0	15.1	20.4	10.4

子どもの有無別に緊急連絡先の相手をみると、子どもがいる人は「子ども（義理を含む）」89.6%、次いで「兄弟・姉妹（義理を含む）」10.3%となっている。一方、子どもがいない人は「兄弟・姉妹（義理を含む）」56.0%、「その他」20.4%となっている。

④ かかりつけ医の有無

かかりつけの病院・医院などがありますか。

図表 3-11 かかりつけ医の有無(単数回答)



かかりつけ医については、「ある」が90.9%であるのに対し、「ない」は9.1%となっている。

図表 3-12 かかりつけ医の有無

			合 計	ある	ない
全 体	人		2,434	2,213	221
	%		100.0	90.9	9.1
性 別	男性	人	645	563	82
		%	100.0	87.3	12.7
	女性	人	1,789	1,650	139
		%	100.0	92.2	7.8
年 齢 別	65～69 歳	人	336	271	65
		%	100.0	80.7	19.3
	70～74 歳	人	401	343	58
		%	100.0	85.5	14.5
	75～79 歳	人	568	519	49
		%	100.0	91.4	8.6
	80～84 歳	人	580	550	30
		%	100.0	94.8	5.2
	85～89 歳	人	407	390	17
		%	100.0	95.8	4.2
	90 歳以上	人	142	140	2
		%	100.0	98.6	1.4

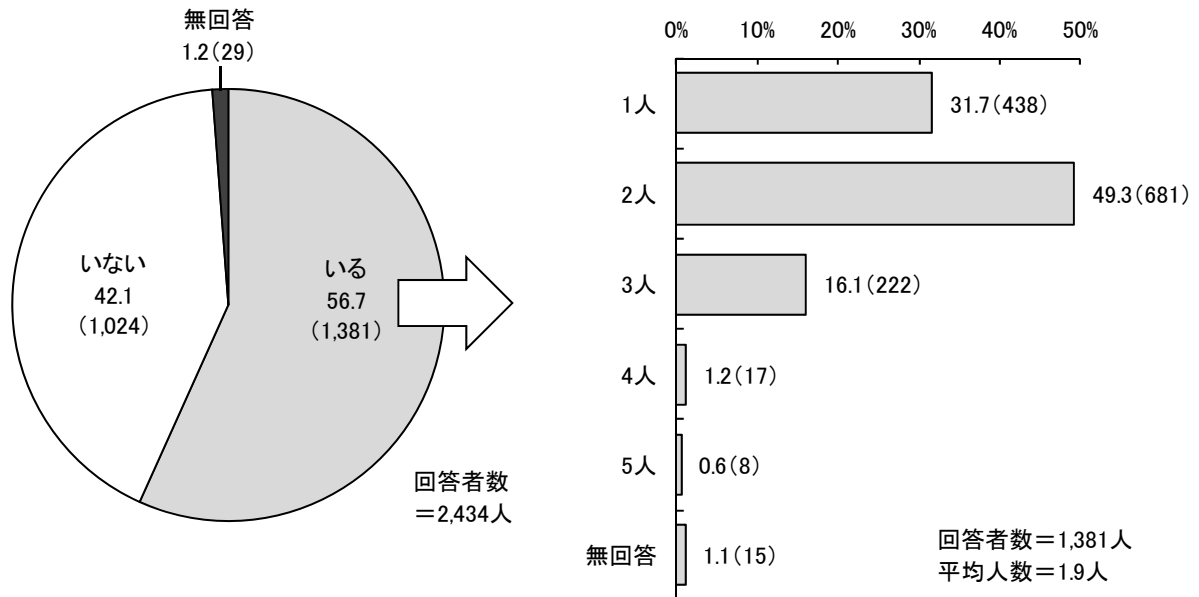
性別では、かかりつけ医が「ある」は女性 92.2%、男性 87.3%で、その差は4.9ポイントである。

また、年齢別では、かかりつけ医が「ある」は65～69歳で8割台である。年齢が高くなると「ある」割合も高くなり、75歳以上では9割台となる。

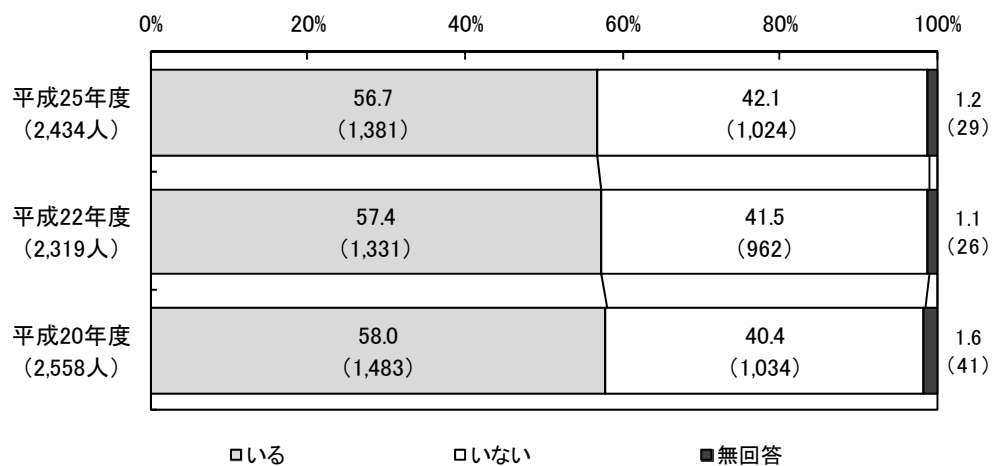
(2) 子どもの有無(項目1)

今現在の家族の状況(子ども)について、該当する番号に○をつけてください。(ひとつだけ)

図表 3-13 子どもの有無及び子どもの数(単数回答)



図表 3-14 平成 20・22 年度調査との比較



子どもが「いる」割合は、「いない」を14.6ポイント上回り、56.7%を占める。

また、子どもが「いる」と回答した人に子どもの人数をたずねたところ、「2人」が49.3%でもっとも高い。

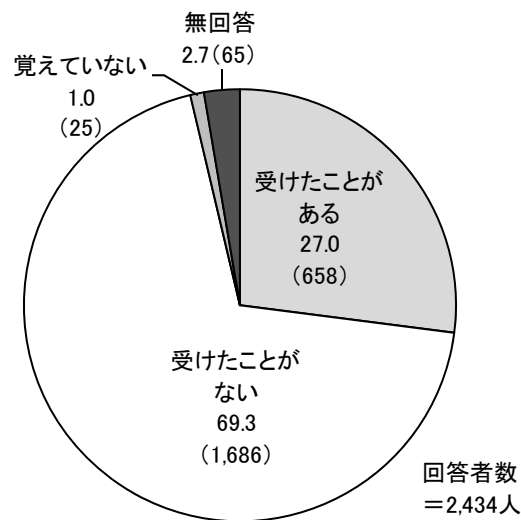
過去調査との比較では大きな変化はなく、平成20年度調査から「いる」割合は1.3ポイント減少している。

(3) 要介護認定について(項目4)

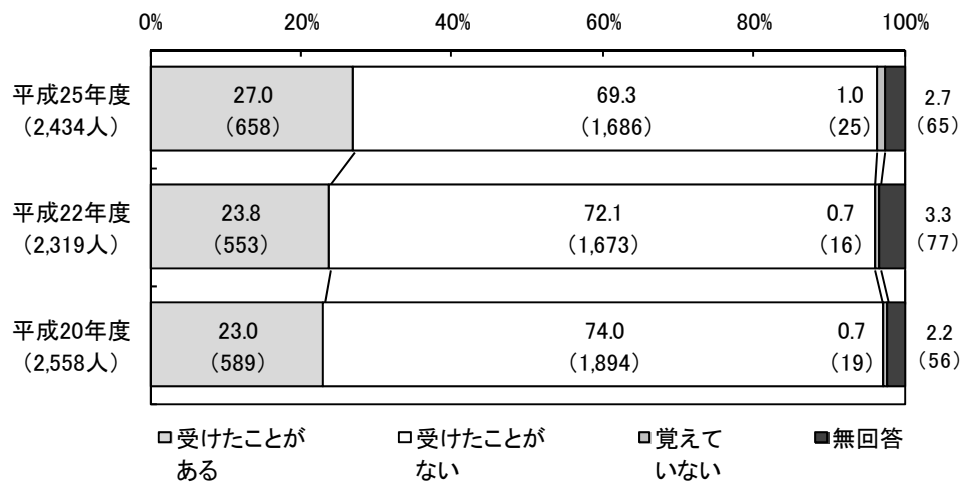
① 要介護認定の有無(項目4)

介護保険申請をして認定を受けたことがありますか。該当する番号に○をつけてください。
(ひとつだけ)

図表 3-15 要介護認定の有無(単数回答)



図表 3-16 平成 20・22 年度調査との比較



要介護認定の有無では、要介護認定を「受けたことがない」が 69.3%を占める。要介護認定を「受けたことがある」は 27.0%である。

図表 3-17 要介護認定の有無

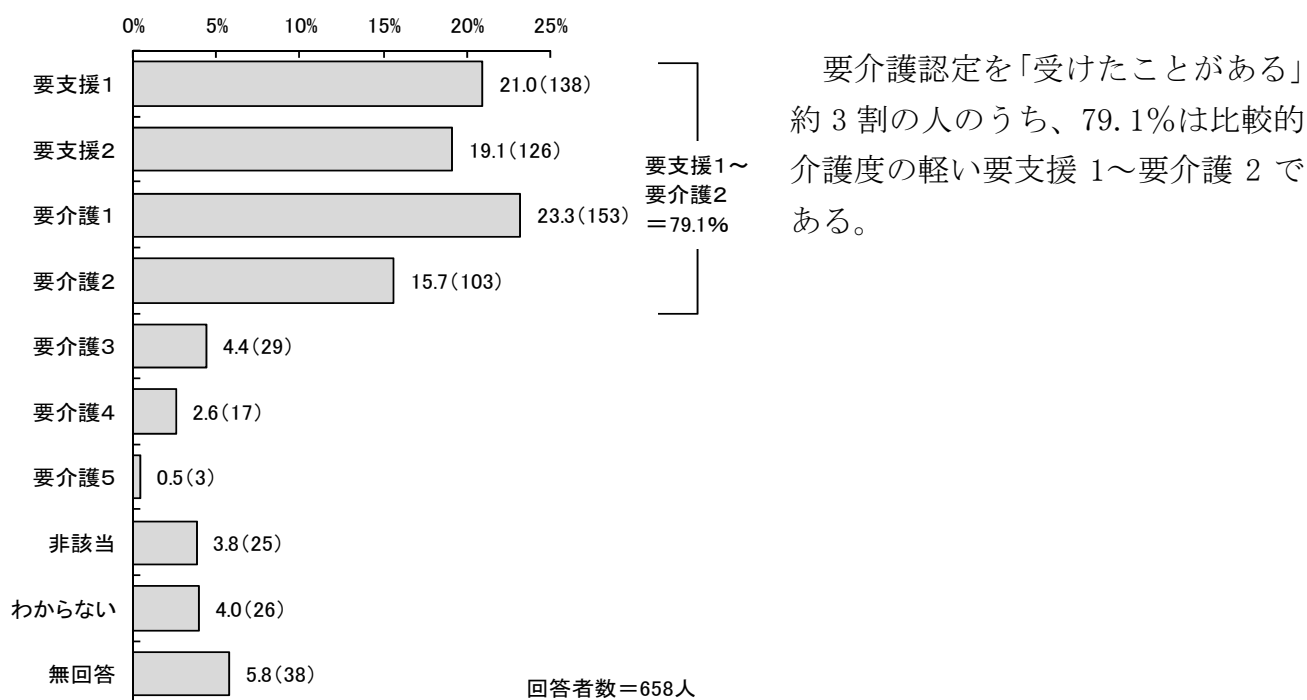
			合 計	受けた ことが ある	受けた ことが ない	覚えて いない	無回答
全 体		人	2,434	658	1,686	25	65
		%	100.0	27.0	69.3	1.0	2.7
性 別	男性	人	645	144	463	13	25
		%	100.0	22.3	71.8	2.0	3.9
	女性	人	1,789	514	1,223	12	40
		%	100.0	28.7	68.4	0.7	2.2
年 齢 別	65～69 歳	人	336	37	282	6	11
		%	100.0	11.0	83.9	1.8	3.3
	70～74 歳	人	401	49	338	3	11
		%	100.0	12.2	84.3	0.7	2.7
	75～79 歳	人	568	108	443	2	15
		%	100.0	19.0	78.0	0.4	2.6
	80～84 歳	人	580	175	383	6	16
		%	100.0	30.2	66.0	1.0	2.8
	85～89 歳	人	407	194	202	5	6
		%	100.0	47.7	49.6	1.2	1.5
	90 歳以上	人	142	95	38	3	6
		%	100.0	66.9	26.8	2.1	4.2

年齢別に要介護認定の有無をみると、要介護認定を「受けたことがある」は 65～69 歳の 11.0%から年齢とともに高くなり、90 歳以上では 66.9%となる。

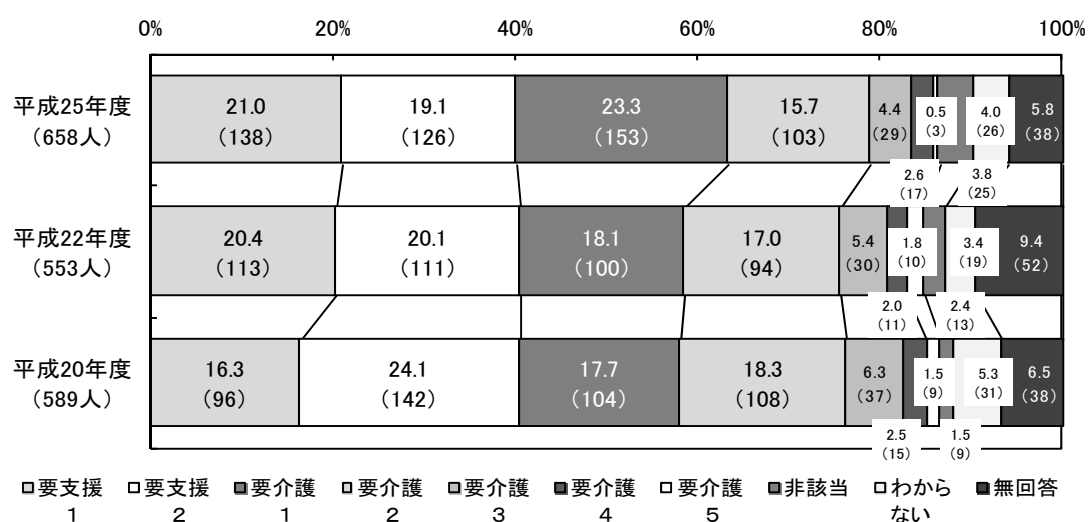
② 要介護認定の結果(項目4)

要介護度はいくつですか(現在または直近)。

図表 3-18 要介護認定の結果(単数回答)



図表 3-19 平成20・22年度調査との比較

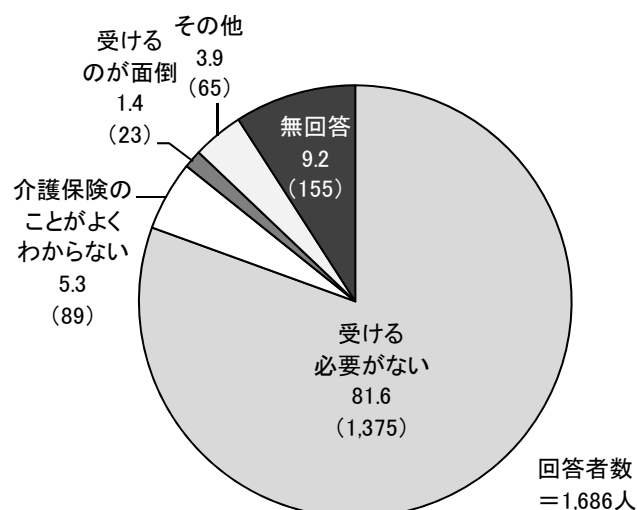


過去調査との比較では、平成20年度調査から「要介護1」の人の割合が5.6ポイント、「要支援1」の人の割合が4.7ポイント増加している。一方、「要支援2」「要介護2」は減少している。

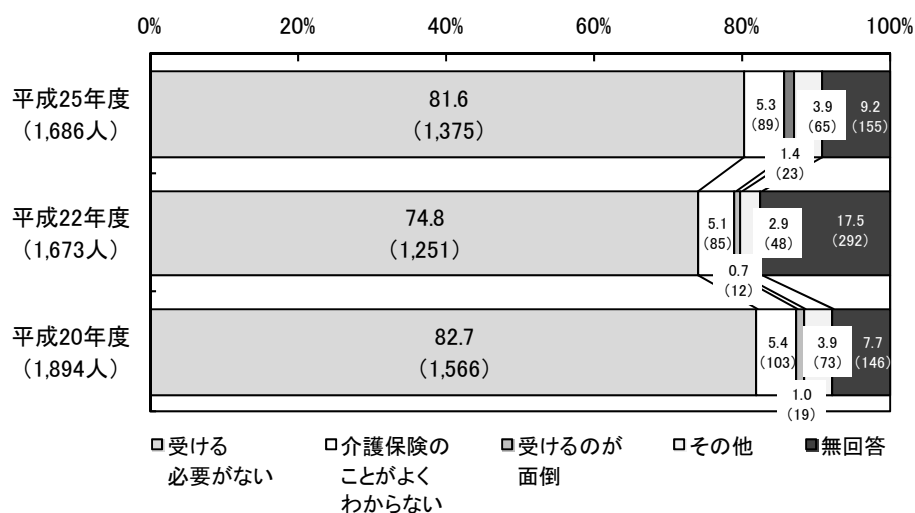
③ 要介護認定を受けない理由(項目4)

受けたことがない理由はなぜですか。

図表 3-20 要介護認定を受けない理由(複数回答)



図表 3-21 平成 20・22 年度調査との比較



要介護認定を受けない理由についてみると、「受ける必要がない」が81.6%、次いで、「介護保険のことがよくわからない」が5.3%である。

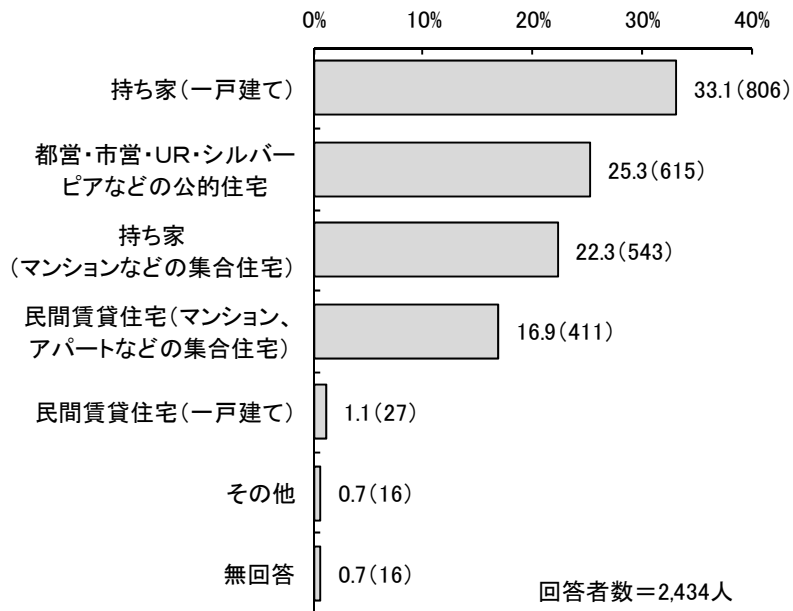
「その他」の理由としては、「今現在、健康のため」「自分で出来る限りやるようにしている」「検討中」「受けに行く時間がつくれぬ」「いずれ申請しなければならない」「民間のサービスを受けている」「迷っている」などがあげられている。

過去調査との比較では、平成22年度調査より、「受ける必要がない」が6.8ポイント増加している。

(4) 住宅の状況(項目6)

住宅の状況について、該当する番号に○をつけてください。(ひとつだけ)

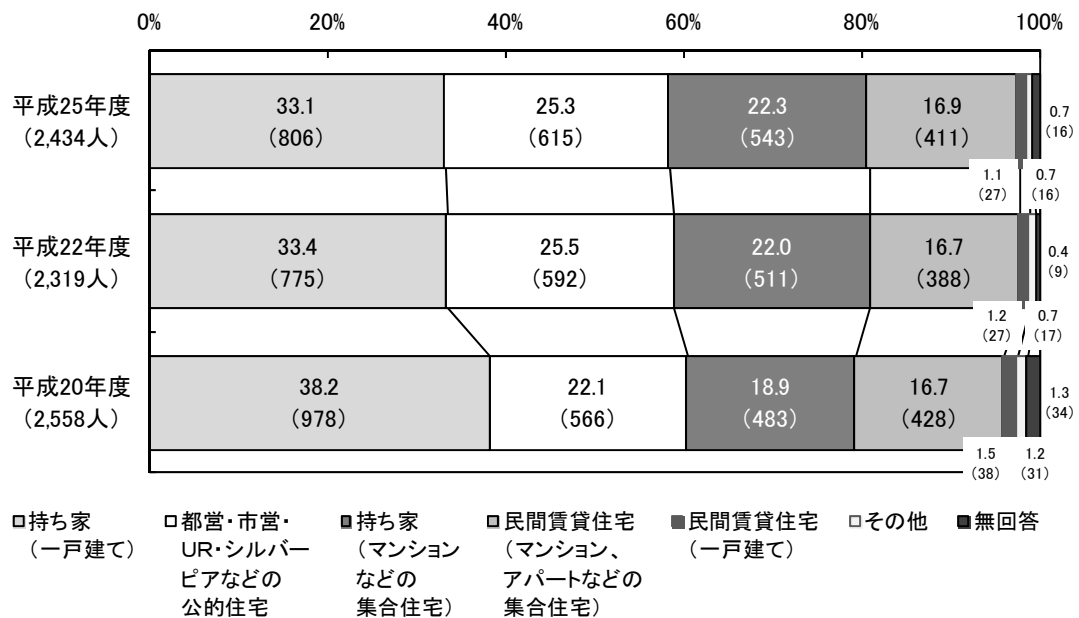
図表 3-22 住宅の状況(単数回答)



住宅の状況は、「持ち家(一戸建て)」の割合が33.1%でもっとも高く、次いで、「都営・市営・UR・シルバーピアなどの公的住宅」が25.3%、「持ち家(マンションなどの集合住宅)」22.3%、「民間賃貸住宅(マンション、アパートなどの集合住宅)」16.9%の順で続いている。

持ち家(「一戸建て」+「マンションなどの集合住宅」)の割合は、過半数を上回る55.4%である。

図表 3-23 平成20・22年度調査との比較



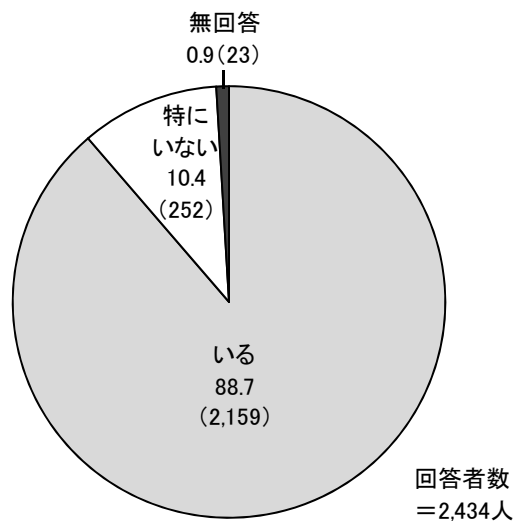
過去調査との比較では、平成20年度調査から「持ち家(一戸建て)」は5.1ポイント減少し、「都営・市営・UR・シルバーピアなどの公的住宅」が3.2ポイント増加、「持ち家(マンションなどの集合住宅)」は3.4ポイント増加する結果となっている。

(5) 日常の交流相手(項目3)

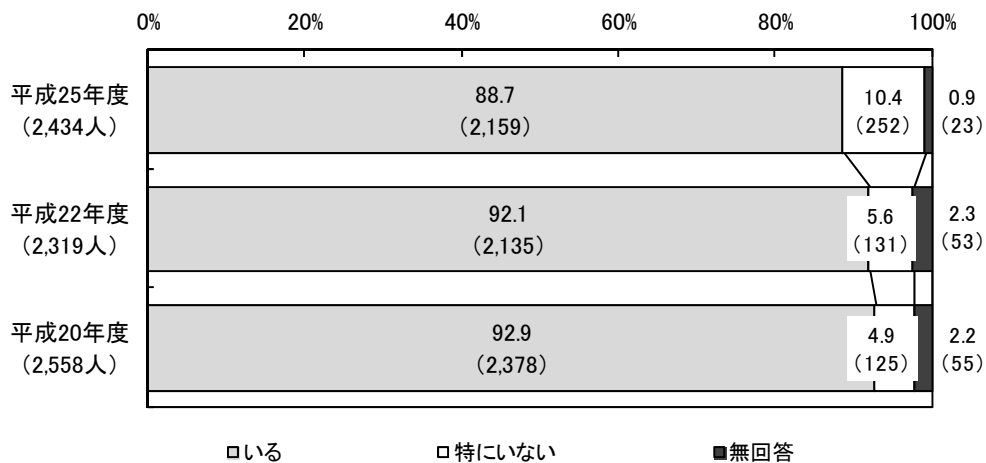
① 日常の交流相手の有無(項目3)

日常の交流相手(普段よく話をしたりする人)の有無について、該当する番号に○をつけてください。

図表 3-24 日常の交流相手の有無(単数回答)

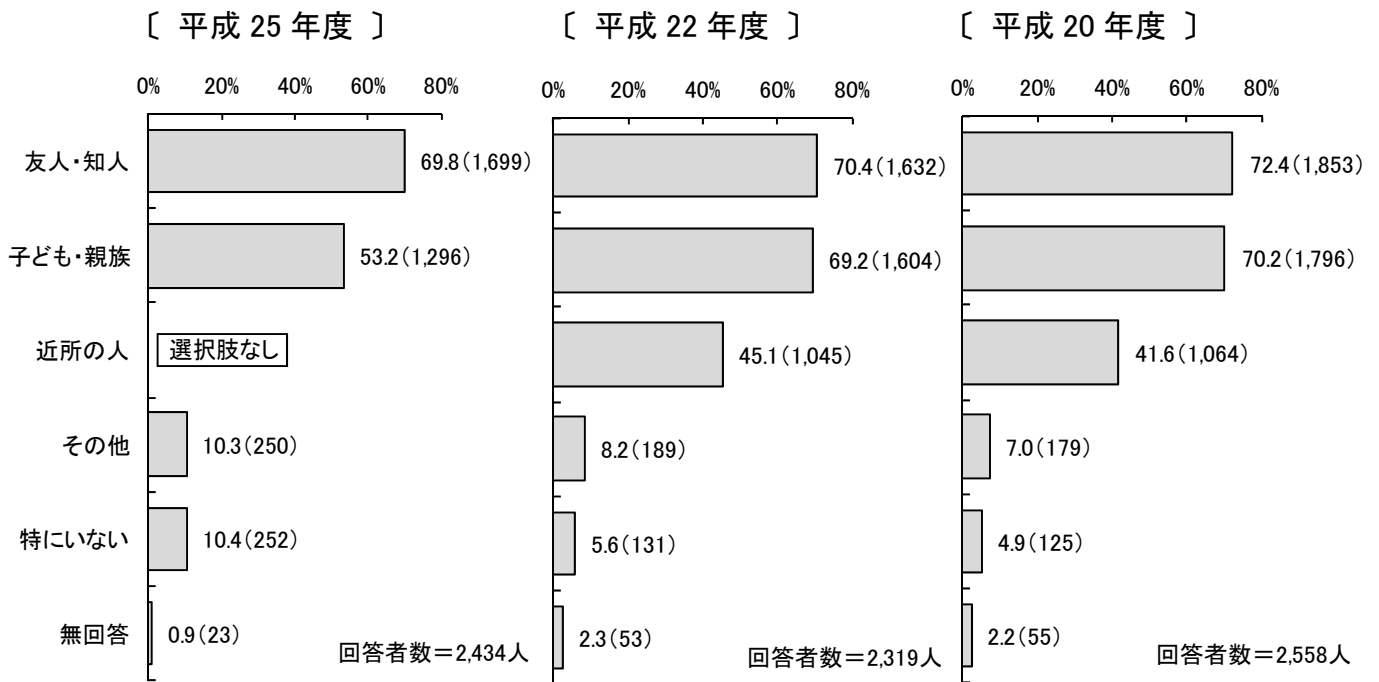


図表 3-25 平成 20・22 年度調査との比較



日常の交流相手が「いる」人は88.7%、「特にいない」人は約1割となっている。

図表 3-26 日常の交流相手(複数回答)



※平成22・25年度調査の「友人・知人」は、平成20年度調査では「友人・知人・同僚」

※「近所の人」は平成25年度調査にはない選択肢

日常の交流相手は、「友人・知人」が69.8%、「子ども・親族」が53.2%で高い割合になっている。日常の交流相手は、友人や親族等が中心であるものの、親族等より友人等の方が16.6ポイント高い結果となった。一方で、交流相手が「特にいない」という回答も10.4%となっている。

「その他」にあげられた日常の交流相手には、「仕事仲間」「ご近所の人」「コミセンの仲間」「デイサービスの方々」「ヘルパー」「ボランティア仲間」「大家・管理人」「老人会仲間」などがある。

過去調査との比較では、平成20年度調査から「子ども・親族」は17.0ポイント減少し、「その他」、「特にいない」がやや増加している。

図表 3-27 日常の交流相手

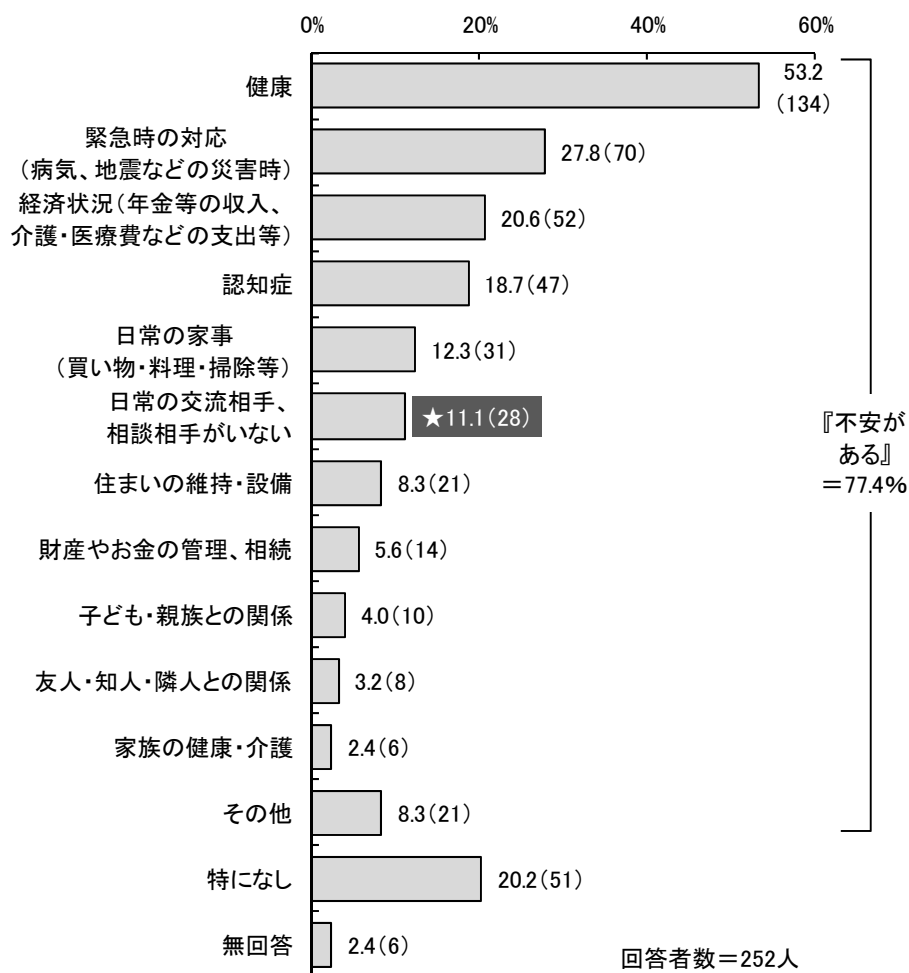
			合 計	友人・ 知人	子ども・ 親族	その他	特に いない	無回答
全 体		人	2,434	1,699	1,296	250	252	23
		%	100.0	69.8	53.2	10.3	10.4	0.9
性 別	男性	人	645	347	222	93	142	14
		%	100.0	53.8	34.4	14.4	22.0	2.2
	女性	人	1,789	1,352	1,074	157	110	9
		%	100.0	75.6	60.0	8.8	6.1	0.5
年 齢 別	65～69 歳	人	336	215	122	37	64	5
		%	100.0	64.0	36.3	11.0	19.0	1.5
	70～74 歳	人	401	296	198	46	43	3
		%	100.0	73.8	49.4	11.5	10.7	0.7
	75～79 歳	人	568	403	299	48	68	4
		%	100.0	71.0	52.6	8.5	12.0	0.7
	80～84 歳	人	580	435	317	47	38	5
		%	100.0	75.0	54.7	8.1	6.6	0.9
	85～89 歳	人	407	272	263	48	33	5
		%	100.0	66.8	64.6	11.8	8.1	1.2
	90 歳以上	人	142	78	97	24	6	1
		%	100.0	54.9	68.3	16.9	4.2	0.7

年齢別にみると、「子ども・親族」は年齢が高くなるにしたがい割合も上がっている。一方で、「友人・知人」は85歳以上になると割合が低くなっている。

② 特にいない人の不安・悩み・心配事

日常の交流相手(普段よく話をしたりする人)の有無について、「特にいない」と回答した人の不安・悩み・心配事について。

図表 3-28 「特にいない」と回答した人の不安・悩み・心配事(複数回答)



※『不安がある』=100%－「特になし」－「無回答」

日常の交流相手が「特にいない」と回答した252人について、不安・悩み・心配事に「日常の交流相手、相談相手がいない」と回答した人は11.1%と1割程度であり、交流相手がいないことを困りごととして捉えている人の割合は低いことが示唆される。

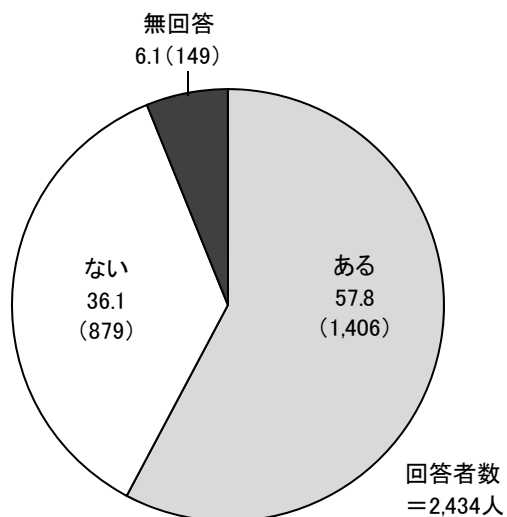
また、不安・悩み・心配事の内容を全体の割合(49ページ参照)と比べてみると、5ポイント以上高くなっている項目は、「日常の交流相手、相談相手がいない」が7.5ポイント、「経済状況(年金等の収入、介護・医療費などの支出等)」が6.7ポイントである。

また、全体から「特になし」と「無回答」除いた『不安がある』人の割合も6.3ポイント高くなっている。

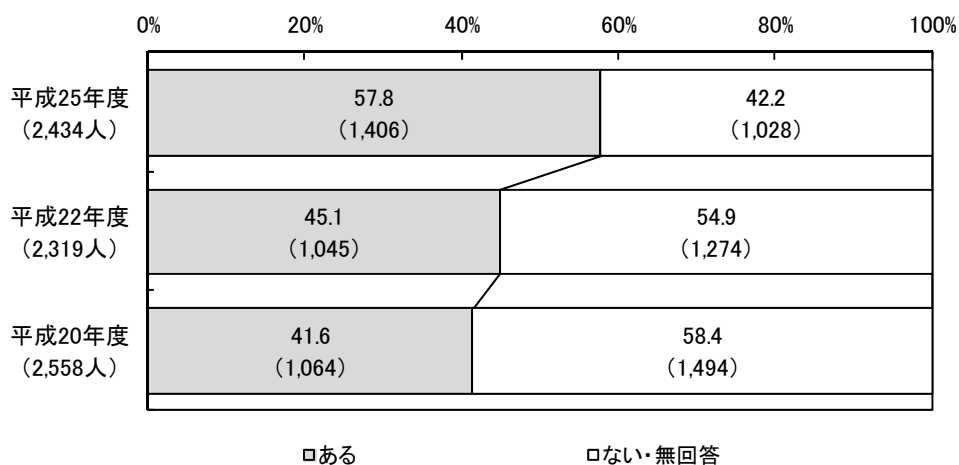
③ 近所付き合いの有無(項目3)

* 近所付き合いは・・・ある・ない

図表 3-29 近所付き合いの有無(単数回答)



図表 3-30 平成 20・22 年度調査との比較



※平成 20・22 年度調査と比較するため、「ない」と「無回答」は合算している

近所付き合いの「ある」人は 57.8%、「ない」人は 36.1%である。

過去調査との比較では、近所付き合いの「ある」人の割合は、平成 20 年度調査から 16.2 ポイント増加している。

図表 3-31 近所付き合いの有無

			合 計	ある	ない	無回答
全 体		人	2,434	1,406	879	149
		%	100.0	57.8	36.1	6.1
性 別	男性	人	645	274	317	54
		%	100.0	42.5	49.1	8.4
	女性	人	1,789	1,132	562	95
		%	100.0	63.3	31.4	5.3
年 齢 別	65～69 歳	人	336	146	162	28
		%	100.0	43.5	48.2	8.3
	70～74 歳	人	401	209	166	26
		%	100.0	52.1	41.4	6.5
	75～79 歳	人	568	328	209	31
		%	100.0	57.7	36.8	5.5
	80～84 歳	人	580	355	185	40
		%	100.0	61.2	31.9	6.9
	85～89 歳	人	407	269	119	19
		%	100.0	66.1	29.2	4.7
	90 歳以上	人	142	99	38	5
		%	100.0	69.7	26.8	3.5

性別では、近所付き合いが「ある」は女性の割合が高く、女性 63.3%、男性 42.5%で、その差は 20.8 ポイントである。

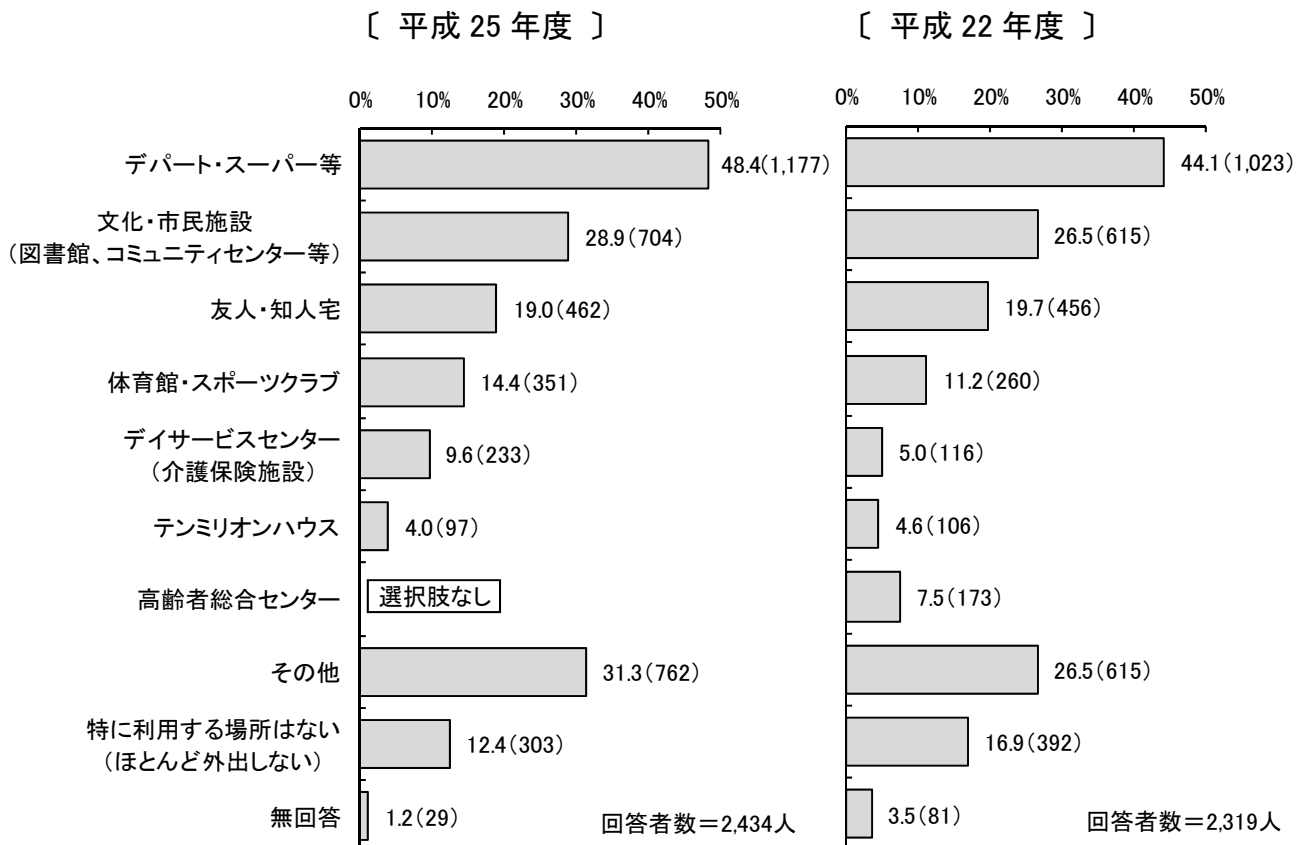
また、年齢別では、年齢が高くなると「ある」割合も高くなる。

(6) 普段よく過ごす場所(項目2)

① 普段よく過ごす場所

普段よく過ごす場所について、該当する番号に○をつけてください。※週1日以上
(あてはまるものすべて)

図表 3-32 普段よく過ごす場所(複数回答)



※平成 25 年度調査の「文化・市民施設」は、平成 22 年度調査では「図書館」「コミュニティセンター」

※「高齢者総合センター」は平成 25 年度調査にはない選択肢

普段よく過ごす場所は、「デパート・スーパー等」が 48.4%でもっとも高く、次いで「文化・市民施設(図書館、コミュニティセンター等)」28.9%、「友人・知人宅」19.0%、「体育館・スポーツクラブ」14.4%などとなっている。

「その他」にあげられた普段よく過ごす場所としては、「子ども・親戚の家」「油絵教室」や「茶道教室」などの習い事、「井の頭公園」(公園・ウォーキング)、「職場」(シルバー人材センター)などとなっている。

平成 22 年度調査と比較すると、5 ポイント以上変動した項目はない。

図表 3-33 普段よく過ごす場所

			合 計	デパート・ スーパー等	文化・市民施設	友人・知人宅	体育館・ スポーツクラブ	デイサービス センター	テニション ハウス	その他	特に利用する 場所はない	無回答
全 体		人	2,434	1,177	704	462	351	233	97	762	303	29
		%	100.0	48.4	28.9	19.0	14.4	9.6	4.0	31.3	12.4	1.2
性 別	男性	人	645	248	153	76	59	50	14	221	116	7
		%	100.0	38.4	23.7	11.8	9.1	7.8	2.2	34.3	18.0	1.1
	女性	人	1,789	929	551	386	292	183	83	541	187	22
		%	100.0	51.9	30.8	21.6	16.3	10.2	4.6	30.2	10.5	1.2
年 齢 別	65～69 歳	人	336	140	89	54	50	9	5	125	48	3
		%	100.0	41.7	26.5	16.1	14.9	2.7	1.5	37.2	14.3	0.9
	70～74 歳	人	401	203	128	80	73	16	15	143	47	3
		%	100.0	50.6	31.9	20.0	18.2	4.0	3.7	35.7	11.7	0.7
	75～79 歳	人	568	305	177	125	105	37	23	191	60	6
		%	100.0	53.7	31.2	22.0	18.5	6.5	4.0	33.6	10.6	1.1
	80～84 歳	人	580	289	192	114	76	62	28	171	57	5
		%	100.0	49.8	33.1	19.7	13.1	10.7	4.8	29.5	9.8	0.9
	85～89 歳	人	407	192	99	71	39	73	23	109	52	8
		%	100.0	47.2	24.3	17.4	9.6	17.9	5.7	26.8	12.8	2.0
	90 歳以上	人	142	48	19	18	8	36	3	23	39	4
		%	100.0	33.8	13.4	12.7	5.6	25.4	2.1	16.2	27.5	2.8
要介護認定の有無	受けたことがある	人	658	251	129	79	35	198	34	164	122	4
		%	100.0	38.1	19.6	12.0	5.3	30.1	5.2	24.9	18.5	0.6
	受けたことがない	人	1686	889	556	361	303	30	61	575	169	22
		%	100.0	52.7	33.0	21.4	18.0	1.8	3.6	34.1	10.0	1.3
	覚えていない	人	25	8	4	5	2	1	0	6	6	0
		%	100.0	32.0	16.0	20.0	8.0	4.0	0.0	24.0	24.0	0.0

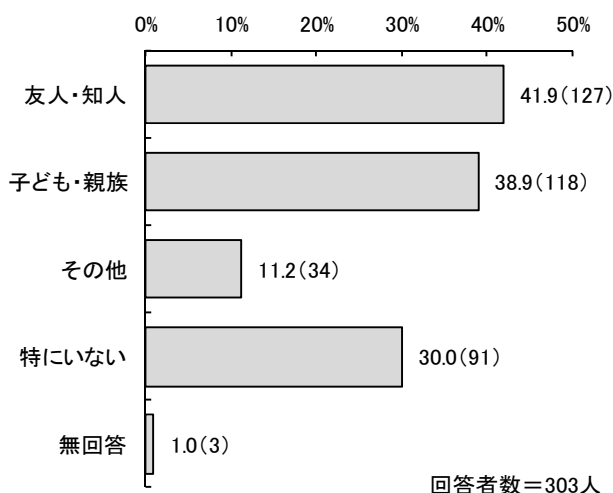
普段よく過ごす場所として割合が高かった「デパート・スーパー等」については、性別では女性、年齢別では 75～79 歳に利用している割合が高くみられる。

また、要介護認定の有無別では、受けたことがある人、受けたことがない人ともに「デパート・スーパー等」が第 1 位であるが、受けたことがあるの人の第 2 位は「デイサービスセンター（介護保険施設）」、受けたことがない人の第 2 位は「文化・市民施設（図書館、コミュニティセンター等）」となっている。

② 特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)人の日常の交流相手と要介護認定の有無、不安・悩み・心配事

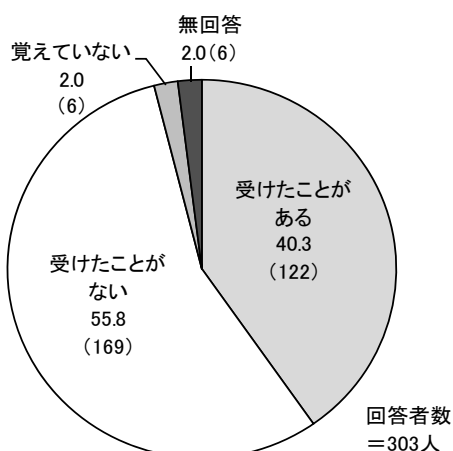
普段よく過ごす場所について、「特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)」と回答した人の日常の交流相手と要介護認定の有無、不安・悩み・心配事について。

図表 3-34 「特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)」と回答した人の日常の交流相手(複数回答)



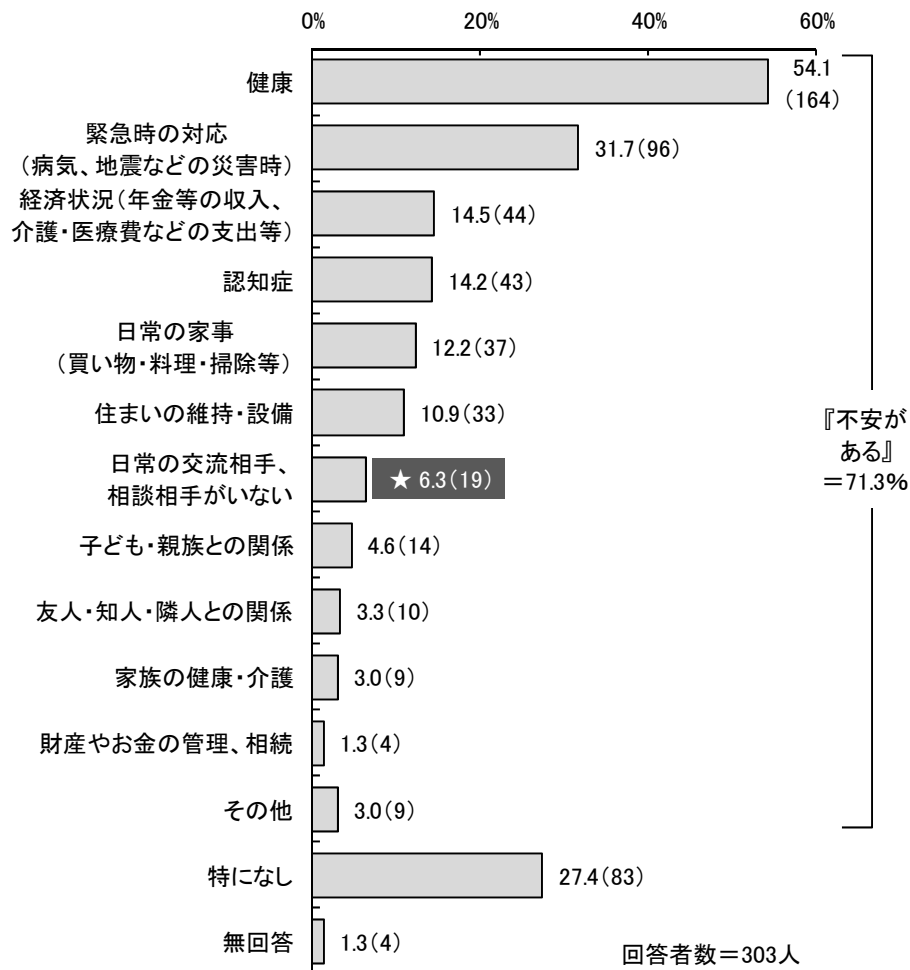
普段よく過ごす場所について、「特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)」と回答した 303 人の日常の交流相手をみると、「友人・知人」をあげている人が 41.9%、「子ども・親族」が 38.9% いる一方で、「特にいない」人が 30.0% と、独居で、ほとんど外出せず、交流相手のいない人がいることが示唆される。

図表 3-35 「特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)」と回答した人の要介護認定の有無(単数回答)



普段よく過ごす場所について、「特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)」と回答した 303 人について、要介護認定の有無をみると、「受けたことがある」人は 40.3% で、全体の 27.0% (22 ページ参照) より 13.3 ポイント高くなっている。

図表 3-36 「特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)」と回答した人の不安・悩み・心配事(複数回答)



※『不安がある』=100%－「特になし」－「無回答」

普段よく過ごす場所について、「特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)」と回答した303人について、不安・悩み・心配事に「日常の交流相手、相談相手がいない」と回答した人は6.3%と1割に満たず、交流相手がいないことを困りごととして捉えている人の割合は低いことが示唆される。

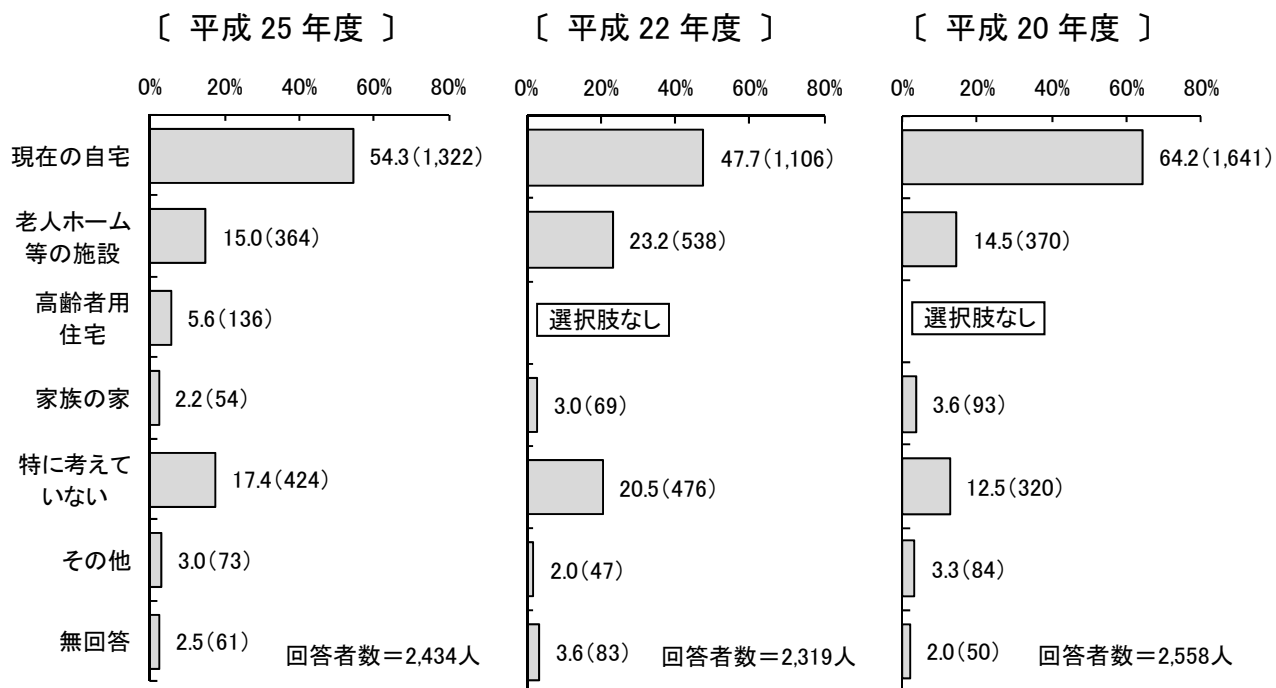
また、不安・悩み・心配事の内容を全体の割合(49ページ参照)と比べてみると、5ポイント以上高くなっている項目はなく、外出しないことによる特定の不安・悩み・心配事はないことが示唆される。一方5ポイント以上低くなっている項目は「認知症」で、7.5ポイント低くなっている。

2. 住まいについて

(1) 介護が必要になったときの住まい(項目5)

介護が必要になったとき、どこで介護を受けたいですか。(ひとつだけ)

図表 3-37 介護が必要になったときの住まい(単数回答)



※平成25年度調査の「現在の自宅」は、平成22年度調査では「今住んでいる家で介護を受けたい」、平成20年度調査では「今のまま」

※平成25年度調査の「老人ホーム等の施設」は、平成22年度調査では「老人ホーム等の施設に入所して介護を受けたい」、平成20年度調査では「老人ホーム等の施設に入所」

※平成25年度調査の「家族の家」は、平成22年度調査では「家族と同居して介護を受けたい」、平成20年度調査では「家族と同居」

※「高齢者用住宅」は平成20・22年度調査にはない選択肢

介護が必要になったときの住まいの希望については、「現在の自宅」が54.3%でもっとも高い。次いで、「老人ホーム等の施設」15.0%、「高齢者用住宅」5.6%であり、「特に考えていない」も17.4%となっている。

過去調査との比較では、平成22年度調査より、「老人ホーム等の施設」が8.2ポイント減少し、「現在の自宅」が6.6ポイント増加している。平成25年度調査から新しく加わった「高齢者用住宅」を希望している人は5.6%となっている。

図表 3-38 介護が必要になったときの住まい

			合 計	現在の 自宅	老人 ホーム等 の施設	高齢者 用住宅	家族の 家	特に 考えて いない	その他	無回答
全 体		人	2,434	1,322	364	136	54	424	73	61
		%	100.0	54.3	15.0	5.6	2.2	17.4	3.0	2.5
性 別	男性	人	645	301	74	42	15	172	22	19
		%	100.0	46.7	11.5	6.5	2.3	26.7	3.4	2.9
	女性	人	1,789	1,021	290	94	39	252	51	42
		%	100.0	57.1	16.2	5.3	2.2	14.1	2.9	2.3
年 齢 別	65～69 歳	人	336	149	44	26	4	94	9	10
		%	100.0	44.3	13.1	7.7	1.2	28.0	2.7	3.0
	70～74 歳	人	401	198	51	31	8	90	14	9
		%	100.0	49.4	12.7	7.7	2.0	22.4	3.5	2.2
	75～79 歳	人	568	304	87	41	9	96	21	10
		%	100.0	53.5	15.3	7.2	1.6	16.9	3.7	1.8
	80～84 歳	人	580	324	101	26	18	83	14	14
		%	100.0	55.9	17.4	4.5	3.1	14.3	2.4	2.4
	85～89 歳	人	407	246	68	9	10	54	9	11
		%	100.0	60.4	16.7	2.2	2.5	13.3	2.2	2.7
	90 歳以上	人	142	101	13	3	5	7	6	7
		%	100.0	71.1	9.2	2.1	3.5	4.9	4.2	4.9
子 ど も の 有 無	いる	人	1,381	802	202	57	40	216	44	20
		%	100.0	58.1	14.6	4.1	2.9	15.6	3.2	1.4
	いない	人	1,024	506	158	76	14	204	29	37
		%	100.0	49.4	15.4	7.4	1.4	19.9	2.8	3.6
要 介 護 認 定 の 有 無 と 介 護 度 別	受けたことがない	人	1,686	862	246	113	38	359	52	16
		%	100.0	51.1	14.6	6.7	2.3	21.3	3.1	0.9
	要支援1	人	138	91	27	6	3	9	1	1
		%	100.0	65.9	19.6	4.3	2.2	6.5	0.7	0.7
	要支援2	人	126	73	34	3	2	7	4	3
		%	100.0	57.9	27.0	2.4	1.6	5.6	3.2	2.4
	要介護1	人	153	108	22	2	4	12	4	1
		%	100.0	70.6	14.4	1.3	2.6	7.8	2.6	0.7
	要介護2	人	103	66	15	4	2	11	2	3
		%	100.0	64.1	14.6	3.9	1.9	10.7	1.9	2.9
	要介護3	人	29	20	3	2	1	2	1	0
		%	100.0	69.0	10.3	6.9	3.4	6.9	3.4	0.0
	要介護4	人	17	16	0	0	0	1	0	0
		%	100.0	94.1	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0
	要介護5	人	3	3	0	0	0	0	0	0
		%	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	認定を受けたが、 非該当等	人	89	57	10	3	4	11	4	0
		%	100.0	64.0	11.2	3.4	4.5	12.4	4.5	0.0
	覚えていない	人	25	14	2	2	0	3	4	0
		%	100.0	56.0	8.0	8.0	0.0	12.0	16.0	0.0

		合 計	現在の 自宅	老人 ホーム等 の施設	高齢者 用住宅	家族の 家	特に 考えて いない	その他	無回答	
全 体		人	2,434	1,322	364	136	54	424	73	61
		%	100.0	54.3	15.0	5.6	2.2	17.4	3.0	2.5
住 宅 の 状 況 別	持ち家 (一戸建て)	人	806	521	116	14	15	112	18	10
		%	100.0	64.6	14.4	1.7	1.9	13.9	2.2	1.2
	持ち家(マンションな どの集合住宅)	人	543	336	69	24	9	80	18	7
		%	100.0	61.9	12.7	4.4	1.7	14.7	3.3	1.3
	民間賃貸住宅 (一戸建て)	人	27	8	3	4	2	7	1	2
		%	100.0	29.6	11.1	14.8	7.4	25.9	3.7	7.4
	民間賃貸住宅 (マンション、アパートな どの集合住宅)	人	411	132	64	53	13	118	15	16
		%	100.0	32.1	15.6	12.9	3.2	28.7	3.6	3.9
	都営・市営・公団・ シルバー・ピアなどの 公的住宅	人	615	318	107	38	14	101	17	20
		%	100.0	51.7	17.4	6.2	2.3	16.4	2.8	3.3
	その他	人	16	4	4	1	0	4	3	0
		%	100.0	25.0	25.0	6.3	0.0	25.0	18.8	0.0

※要介護認定の有無と介護度別は、『要介護認定の有無』と『要介護認定の結果』を再分類している

※網掛けは、コメント部分の選択肢

介護が必要になったときの住まいをみると、性別・年齢別・子どもの有無別・要介護認定の有無と介護度別・住宅の状況別すべてにおいて、「現在の自宅」と回答した割合がもっとも高い。

性別では、「現在の自宅」という希望は女性では 57.1%であるのに対し、男性は 46.7%と低い。男性は「特に考えていない」という回答割合が 26.7%と高いことが特徴となっている。

子どもの有無別では、子どものいる人で「家族の家」と回答した割合は 2.9%と低く、子どもの家での介護を望んでいる人が少ないことが示唆される。

年齢別では、「現在の自宅」は 65～69 歳の 44.3%から年齢とともに高まり、90 歳以上では 71.1%となっている。また、「高齢者用住宅」という希望は 65～79 歳で 7%台となっている。

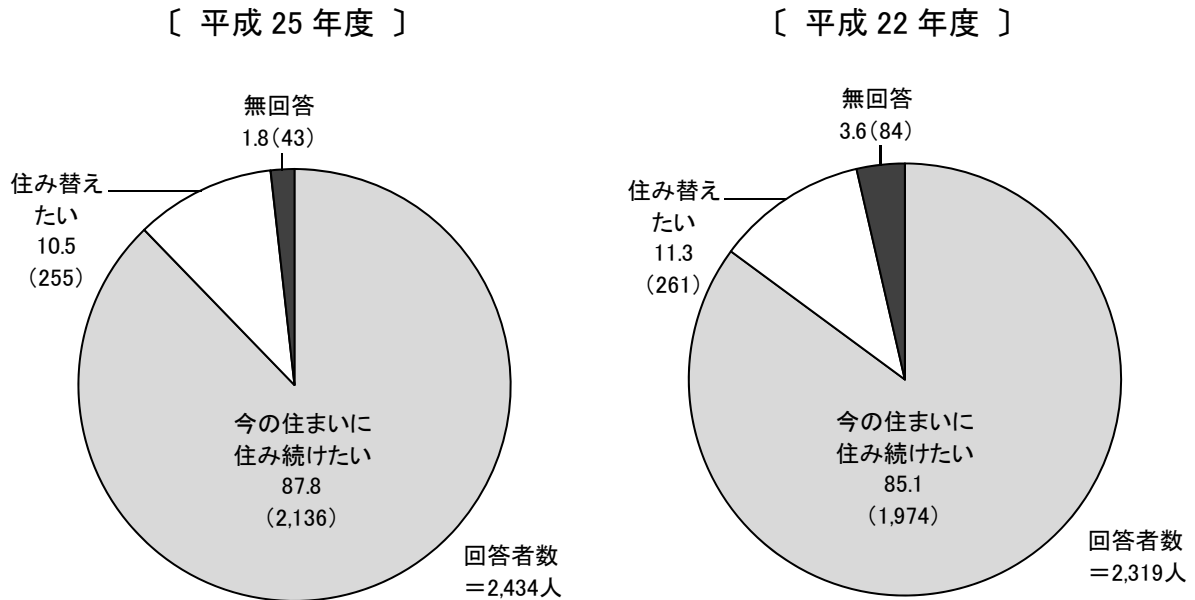
住宅の状況別では、持ち家（一戸建て、マンションなどの集合住宅）では「現在の自宅」と回答した割合が全体より高く、民間賃貸住宅（一戸建て、マンション・アパートなどの集合住宅）では「高齢者用住宅」と回答した割合が全体より高い。

(2) 今の住まいへの居住意向(項目7)

① 今の住まいへの居住意向

今の住まいからの住み替えについて、該当する番号に○をつけてください。(ひとつだけ)

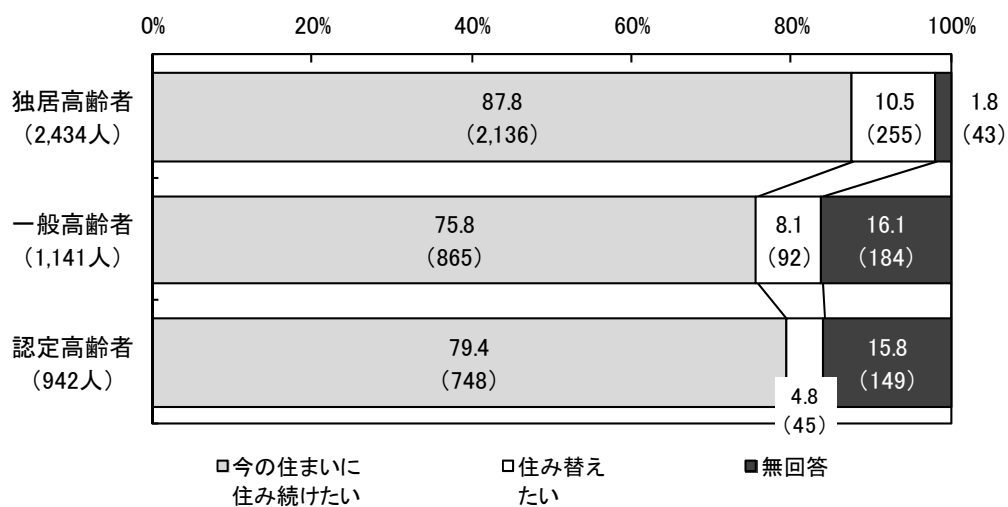
図表 3-39 今の住まいからの住み替えの意向(単数回答)



今の住まいへの居住意向については、「今の住まいに住み続けたい」が87.8%を占め、「住み替えたい」は10.5%と1割台にとどまっている。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はない。

図表 3-40 平成 25 年度『高齢者実態調査』『要支援・要介護高齢者実態調査』との比較



※一般高齢者、認定高齢者については、『高齢者実態調査 要支援・要介護高齢者実態調査報告書』（平成 26 年 3 月）の 16 ページ及び 54 ページ参照のこと

平成 25 年度『高齢者実態調査』『要支援・要介護高齢者実態調査』と比較すると、「今の住まいに住み続けたい」は、一般高齢者より 12.0 ポイント、認定高齢者より 8.4 ポイント高くなっている。

「住み替えたい」は、一般高齢者より 2.4 ポイント、認定高齢者より 5.7 ポイント高くなっている。

図表 3-41 今の住まいへの居住意向

			合 計	今の住まいに 住み続けたい	住み替え たい	無回答
全 体		人	2,434	2,136	255	43
		%	100.0	87.8	10.5	1.8
性 別	男性	人	645	523	110	12
		%	100.0	81.1	17.1	1.9
	女性	人	1,789	1,613	145	31
		%	100.0	90.2	8.1	1.7
年 齢 別	65～69 歳	人	336	257	69	10
		%	100.0	76.5	20.5	3.0
	70～74 歳	人	401	318	75	8
		%	100.0	79.3	18.7	2.0
	75～79 歳	人	568	502	58	8
		%	100.0	88.4	10.2	1.4
	80～84 歳	人	580	540	31	9
		%	100.0	93.1	5.3	1.6
	85～89 歳	人	407	380	21	6
		%	100.0	93.4	5.2	1.5
	90 歳以上	人	142	139	1	2
		%	100.0	97.9	0.7	1.4
子どもの有無別	いる	人	1,381	1,260	103	18
		%	100.0	91.2	7.5	1.3
	いない	人	1,024	853	148	23
		%	100.0	83.3	14.5	2.2
要介護認定の有無	受けたことがある	人	658	608	44	6
		%	100.0	92.4	6.7	0.9
	受けたことがない	人	1,686	1,458	198	30
		%	100.0	86.5	11.7	1.8
	覚えていない	人	25	20	5	0
		%	100.0	80.0	20.0	0.0
住宅の状況別	持ち家（一戸建て）	人	806	760	34	12
		%	100.0	94.3	4.2	1.5
	持ち家（マンションなどの集合住宅）	人	543	516	25	2
		%	100.0	95.0	4.6	0.4
	民間賃貸住宅（一戸建て）	人	27	20	7	0
		%	100.0	74.1	25.9	0.0
	民間賃貸住宅（マンション、アパートなどの集合住宅）	人	411	260	143	8
		%	100.0	63.3	34.8	1.9
	都営・市営・公団・シルバーピアなどの公的住宅	人	615	566	38	11
		%	100.0	92.0	6.2	1.8
	その他	人	16	9	6	1
		%	100.0	56.3	37.5	6.3

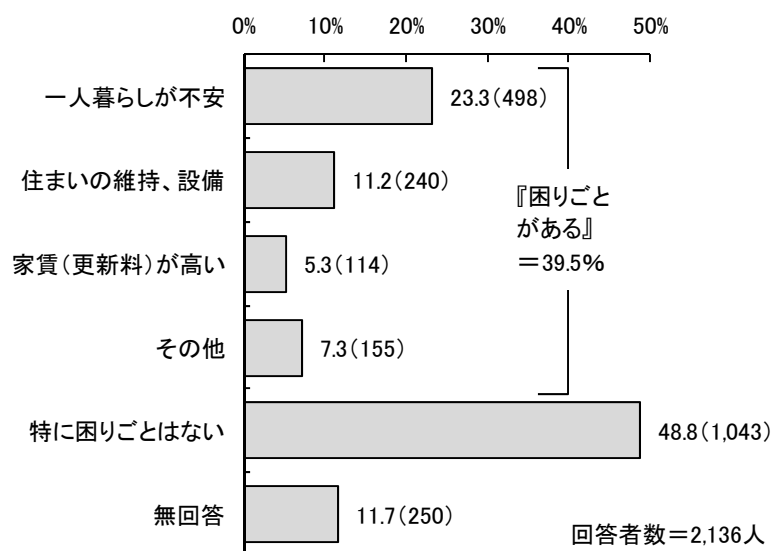
※網掛けは、コメント部分の選択肢

「住み替えたい」割合を性別で見ると、女性より男性のほうが高く 17.1%、年齢別では 65～69 歳がもっとも高く 20.5%、子どもの有無別ではいない人のほうが高く 14.5%となっている。また、住宅の状況別では、民間賃貸住宅（マンション・アパートなどの集合住宅）が 34.8%ともっとも高く、持ち家と民間賃貸住宅の差が大きく出ている。

② 住み続けるための困りごと(項目7)

(1) 今の住まいに住み続けたいと答えた方→住み続けるために、何か困りごとはありませんか。

図表 3-42 住み続けるための困りごと(複数回答)



※『困りごとがある』=100%－「特に困りごとはない」－「無回答」

住み続けるための困りごとについて、「特に困りごとはない」は 48.8%と約半数を占め、次いで「一人暮らしが不安」23.3%、「住まいの維持、設備」11.2%、「家賃（更新料）が高い」5.3%の順になっている。

図表 3-43 住み続けるための困りごと

			合 計	一人暮らしが不安	住まいの維持、設備	家賃（更新料）が高い	その他	特に困りごとはない	無回答
全 体		人	2,136	498	240	114	155	1,043	250
		%	100.0	23.3	11.2	5.3	7.3	48.8	11.7
性 別	男性	人	523	110	52	28	32	278	60
		%	100.0	21.0	9.9	5.4	6.1	53.2	11.5
	女性	人	1,613	388	188	86	123	765	190
		%	100.0	24.1	11.7	5.3	7.6	47.4	11.8
年 齢 別	65～69 歳	人	257	50	31	12	20	138	30
		%	100.0	19.5	12.1	4.7	7.8	53.7	11.7
	70～74 歳	人	318	71	40	22	22	156	34
		%	100.0	22.3	12.6	6.9	6.9	49.1	10.7
	75～79 歳	人	502	120	51	28	31	247	60
		%	100.0	23.9	10.2	5.6	6.2	49.2	12.0
	80～84 歳	人	540	127	66	31	39	262	55
		%	100.0	23.5	12.2	5.7	7.2	48.5	10.2
	85～89 歳	人	380	98	38	14	33	170	56
		%	100.0	25.8	10.0	3.7	8.7	44.7	14.7
	90 歳以上	人	139	32	14	7	10	70	15
		%	100.0	23.0	10.1	5.0	7.2	50.4	10.8
子 どもの 有 無 別	いる	人	1,260	289	157	65	90	614	145
		%	100.0	22.9	12.5	5.2	7.1	48.7	11.5
	いない	人	853	202	79	49	65	421	100
		%	100.0	23.7	9.3	5.7	7.6	49.4	11.7
要 介 護 認 定 の 有 無	受けたことがある	人	608	191	80	32	52	244	67
		%	100.0	31.4	13.2	5.3	8.6	40.1	11.0
	受けたことがない	人	1,458	293	156	80	97	763	172
		%	100.0	20.1	10.7	5.5	6.7	52.3	11.8
	覚えていない	人	20	3	1	0	2	9	6
		%	100.0	15.0	5.0	0.0	10.0	45.0	30.0
住 宅 の 状 況 別	持ち家（一戸建て）	人	760	200	152	6	51	344	88
		%	100.0	26.3	20.0	0.8	6.7	45.3	11.6
	持ち家（マンションなどの集合住宅）	人	516	136	35	1	52	287	33
		%	100.0	26.4	6.8	0.2	10.1	55.6	6.4
	民間賃貸住宅（一戸建て）	人	20	4	3	2	2	8	4
		%	100.0	20.0	15.0	10.0	10.0	40.0	20.0
	民間賃貸住宅（マンション、アパートなどの集合住宅）	人	260	37	18	30	14	145	32
		%	100.0	14.2	6.9	11.5	5.4	55.8	12.3
	都営・市営・公団・シルバーピアなどの公的住宅	人	566	118	30	75	35	254	90
		%	100.0	20.8	5.3	13.3	6.2	44.9	15.9
	その他	人	9	2	1	0	1	3	2
		%	100.0	22.2	11.1	0.0	11.1	33.3	22.2

※網掛けは、全体の値を上回った選択肢

性別、年齢別、要介護認定の有無別、住宅の状況別いずれにおいても、「一人暮らしが不安」とあげている割合が第1位である。

また、「住まいの維持、設備」と回答した人のうち約6割は、持ち家（一戸建て）に居住している。

図表 3-44 平成 25 年度『高齢者実態調査』『要支援・要介護高齢者実態調査』との比較

選択肢	独居高齢者 (2,136 人)	選択肢	一般高齢者 (865 人)	認定高齢者 (748 人)
一人暮らしが不安	23.3%	一人で住むのが不安	4.6%	10.4%
住まいの維持、設備	11.2%	住宅の老朽化	18.8%	18.9%
家賃(更新料)が高い	5.3%	家賃(更新料)が高い	5.8%	4.8%
その他	7.3%	その他	7.2%	7.1%
特に困りごとはない	48.8%	特に困りごとはない	49.8%	36.8%
無回答	11.7%	無回答	4.2%	3.5%

※比較できる選択肢のみ掲載している

※一般高齢者、認定高齢者については、『高齢者実態調査 要支援・要介護高齢者実態調査報告書』(平成 26 年 3 月)の 17 ページ及び 55 ページ参照のこと

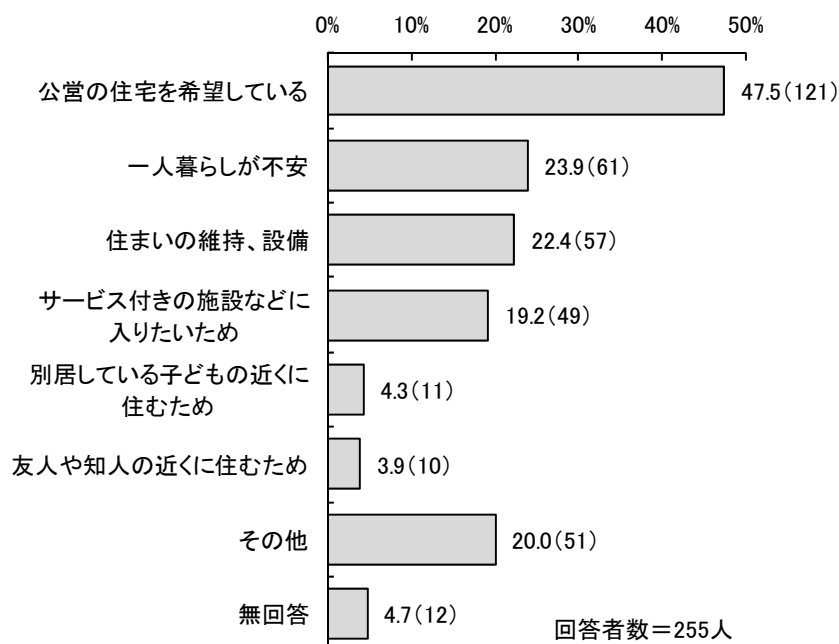
平成 25 年度『高齢者実態調査』『要支援・要介護高齢者実態調査』と比較すると、「一人暮らしが不安」は、一般高齢者より 18.7 ポイント、認定高齢者より 12.9 ポイント高くなっている。

一方、「住まいの維持、設備」は、一般高齢者より 7.6 ポイント、認定高齢者より 7.7 ポイント低くなっている。

③ 住み替えたい理由(項目7)

(2)住み替えたいと答えた方→住み替えたい理由は何ですか。

図表 3-45 住み替えたい理由(複数回答)



住み替えたい理由について、「公営の住宅を希望している」は 47.5%と約半数となっている。次いで、「一人暮らしが不安」23.9%、「住まいの維持、設備」22.4%、「サービス付きの施設などに入りたいため」19.2%の順になっている。

図表 3-42 (43 ページ参照) と比較すると、住み替え希望の有無にかかわらず、「一人暮らしが不安」と回答している割合は同程度で約 24%である。

「その他」の 20.0%の中であげられた住み替えたい理由の内容は、「階段、段差の無い部屋に移りたい」「買物が遠くて不便」「シルバーピアのような所」「立ち退くように言われている」「家賃(更新料)が高い」などである。

図表 3-46 住み替えたい理由

			合計	公営の住宅を希望 している	一人暮らしが不安	住まいの維持、設備	サービス付きの施設 などに入りたいため	別居している子ども の近くに住むため	友人や知人の近くに 住むため	その他	無回答
全 体		人	255	121	61	57	49	11	10	51	12
		%	100.0	47.5	23.9	22.4	19.2	4.3	3.9	20.0	4.7
性 別	男性	人	110	57	20	25	22	3	3	23	5
		%	100.0	51.8	18.2	22.7	20.0	2.7	2.7	20.9	4.5
	女性	人	145	64	41	32	27	8	7	28	7
		%	100.0	44.1	28.3	22.1	18.6	5.5	4.8	19.3	4.8
年 齢 別	65～69 歳	人	69	36	11	10	12	2	3	18	5
		%	100.0	52.2	15.9	14.5	17.4	2.9	4.3	26.1	7.2
	70～74 歳	人	75	39	15	21	14	4	2	12	2
		%	100.0	52.0	20.0	28.0	18.7	5.3	2.7	16.0	2.7
	75～79 歳	人	58	28	15	17	7	2	3	13	3
		%	100.0	48.3	25.9	29.3	12.1	3.4	5.2	22.4	5.2
	80～84 歳	人	31	14	11	7	5	1	1	6	1
		%	100.0	45.2	35.5	22.6	16.1	3.2	3.2	19.4	3.2
	85～89 歳	人	21	4	8	2	10	2	1	2	1
		%	100.0	19.0	38.1	9.5	47.6	9.5	4.8	9.5	4.8
	90 歳以上	人	1	0	1	0	1	0	0	0	0
		%	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
子 ど も の 有 無 別	いる	人	103	45	27	29	20	9	2	19	3
		%	100.0	43.7	26.2	28.2	19.4	8.7	1.9	18.4	2.9
	いない	人	148	74	33	27	27	2	8	32	9
		%	100.0	50.0	22.3	18.2	18.2	1.4	5.4	21.6	6.1
要 介 護 認 定 の 有 無	受けたことがある	人	44	12	13	10	11	2	2	6	4
		%	100.0	27.3	29.5	22.7	25.0	4.5	4.5	13.6	9.1
	受けたことがない	人	198	101	45	43	37	9	8	40	8
		%	100.0	51.0	22.7	21.7	18.7	4.5	4.0	20.2	4.0
	覚えていない	人	5	2	1	1	1	0	0	3	0
		%	100.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0
住 宅 の 状 況 別	持ち家 (一戸建て)	人	34	5	16	16	12	2	1	2	2
		%	100.0	14.7	47.1	47.1	35.3	5.9	2.9	5.9	5.9
	持ち家(マンションなどの 集合住宅)	人	25	5	9	7	12	2	1	4	0
		%	100.0	20.0	36.0	28.0	48.0	8.0	4.0	16.0	0.0
	民間賃貸住宅 (一戸建て)	人	7	3	0	2	0	0	1	2	1
		%	100.0	42.9	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3
	民間賃貸住宅 (マンション、アパートな どの集合住宅)	人	143	97	25	22	20	3	2	34	2
		%	100.0	67.8	17.5	15.4	14.0	2.1	1.4	23.8	1.4
	都営・市営・公団・ シルバーピアなどの 公的住宅	人	38	9	8	8	3	4	3	9	6
		%	100.0	23.7	21.1	21.1	7.9	10.5	7.9	23.7	15.8
	その他	人	6	2	2	2	2	0	1	0	1
		%	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7

※網掛けは、全体の値を上回った選択肢

住宅の状況別にみると、「公営の住宅を希望している」人の約8割が民間賃貸住宅に居住している。

図表 3-47 平成 25 年度『高齢者実態調査』『要支援・要介護高齢者実態調査』との比較

選択肢	独居高齢者 (255 人)	選択肢	一般高齢者 (92 人)	認定高齢者 (45 人)
公営の住宅を希望している	47.5%	公営の住宅を希望している	38.0%	26.7%
一人暮らしが不安	23.9%	ひとり暮らしが不安	5.4%	26.7%
住まいの維持、設備	22.4%	住宅の老朽化がはげしい	19.6%	8.9%
サービス付きの施設などに入りたいため	19.2%	サービス付きの施設などに入りたいため	6.5%	40.0%
別居している子どもの近くに住むため	4.3%	別居している子どもの近くに住むため	3.3%	6.7%
友人や知人の近くに住むため	3.9%	友人や知人の近くに住むため	1.1%	2.2%
その他	20.0%	その他	33.7%	6.7%
無回答	4.7%	無回答	6.5%	0.0%

※比較できる選択肢のみ掲載している

※一般高齢者、認定高齢者については、『高齢者実態調査 要支援・要介護高齢者実態調査報告書』（平成 26 年 3 月）の 18 ページ及び 57 ページ参照のこと

平成 25 年度『高齢者実態調査』『要支援・要介護高齢者実態調査』と比較すると、「公営の住宅を希望している」は、一般高齢者より 9.5 ポイント、認定高齢者より 20.8 ポイント高くなっている。

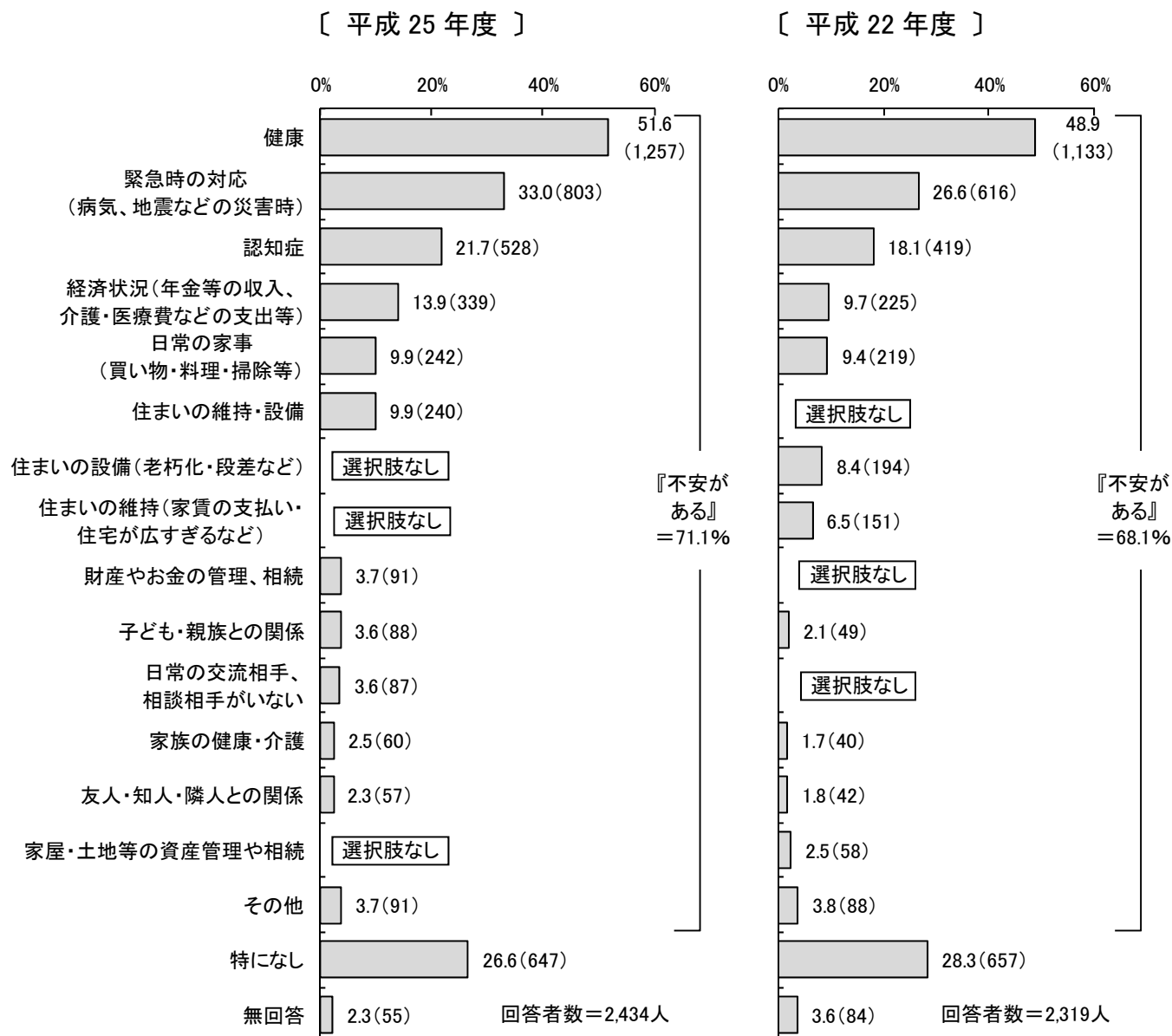
また、「住まいの維持、設備」についても、一般高齢者より 2.8 ポイント、認定高齢者より 13.5 ポイント高くなっている。

3. 不安・悩み・心配事について

(1) 不安・悩み・心配事(項目8)

不安・悩み・心配事について、該当する番号に○をつけてください。(あてはまるものすべて)

図表 3-48 不安・悩み・心配事(複数回答)



※『不安がある』=100%－「特になし」－「無回答」

※平成 25 年度調査の「緊急時の対応(病気、地震などの災害時)」は、平成 22 年度調査では「病気・災害等の緊急時の対応」

※平成 25 年度調査の「認知症」は、平成 22 年度調査では「介護・認知症」

※平成 25 年度調査の「家族の健康・介護」は、平成 22 年度調査では「親・親族の世話・介護」

※「家屋・土地等の資産管理や相続」は平成 25 年度調査にはない選択肢

※「財産やお金の管理、相続」は平成 22 年度調査にはない選択肢

※「日常の交流相手、相談相手がいない」は平成 22 年度調査にはない選択肢

不安・悩み・心配事についてたずねたところ、「健康」をあげた割合が 51.6%でもっとも高い。次いで、「緊急時の対応（病気、地震などの災害等）」が 33.0%、「認知症」21.7%と続いている。また、自立している人が多いためか、「特になし」という割合が 26.6%である。

「その他」の 3.7%の中であげられた不安・悩み・心配事の内容は、「ひとりでいつまで生活出来るか」「住まい（設備）のこと」「地震など災害」「亡くなった後のこと」「子どものこと（結婚など）」「老人ホームへの入所」「騒音」「仕事のこと」などである。

平成 22 年度調査と比較すると、東日本大震災の影響からか「緊急時の対応（病気、地震などの災害時）」が 6.4 ポイントと最も増加している。

図表 3-49 不安・悩み・心配事

			合計	健康	緊急時の対応（病気、地震などの災害等）	認知症	経済状況	日常の家事	住まいの維持・設備	相続、財産やお金の管理、
全 体		人	2,434	1,257	803	528	339	242	240	91
		%	100.0	51.6	33.0	21.7	13.9	9.9	9.9	3.7
性 別	男性	人	645	334	170	90	99	71	60	29
		%	100.0	51.8	26.4	14.0	15.3	11.0	9.3	4.5
	女性	人	1,789	923	633	438	240	171	180	62
		%	100.0	51.6	35.4	24.5	13.4	9.6	10.1	3.5
年 齢 別	65～69 歳	人	336	170	100	54	55	17	34	12
		%	100.0	50.6	29.8	16.1	16.4	5.1	10.1	3.6
	70～74 歳	人	401	207	140	105	76	27	50	20
		%	100.0	51.6	34.9	26.2	19.0	6.7	12.5	5.0
	75～79 歳	人	568	304	193	140	85	57	63	23
		%	100.0	53.5	34.0	24.6	15.0	10.0	11.1	4.0
	80～84 歳	人	580	296	191	123	83	73	57	25
		%	100.0	51.0	32.9	21.2	14.3	12.6	9.8	4.3
	85～89 歳	人	407	217	138	81	29	46	27	7
		%	100.0	53.3	33.9	19.9	7.1	11.3	6.6	1.7
	90 歳以上	人	142	63	41	25	11	22	9	4
		%	100.0	44.4	28.9	17.6	7.7	15.5	6.3	2.8
要介護認定の有無別	受けたことがある	人	658	411	252	167	86	120	75	34
		%	100.0	62.5	38.3	25.4	13.1	18.2	11.4	5.2
	受けたことがない	人	1686	814	538	351	240	118	160	56
		%	100.0	48.3	31.9	20.8	14.2	7.0	9.5	3.3
	覚えていない	人	25	12	4	6	2	1	2	0
		%	100.0	48.0	16.0	24.0	8.0	4.0	8.0	0.0

			合 計	子 ども ・ 親 族 と の 関 係	日 常 の 交 流 相 手 、 相 談 相 手 が い な い	家 族 の 健 康 ・ 介 護	友 人 ・ 知 人 ・ 隣 人 と の 関 係	そ の 他	特 に な し	無 回 答
全 体		人	2,434	88	87	60	57	91	647	55
		%	100.0	3.6	3.6	2.5	2.3	3.7	26.6	2.3
性 別	男性	人	645	30	39	15	17	18	183	22
		%	100.0	4.7	6.0	2.3	2.6	2.8	28.4	3.4
	女性	人	1,789	58	48	45	40	73	464	33
		%	100.0	3.2	2.7	2.5	2.2	4.1	25.9	1.8
年 齢 別	65～69 歳	人	336	15	18	7	12	11	96	10
		%	100.0	4.5	5.4	2.1	3.6	3.3	28.6	3.0
	70～74 歳	人	401	18	11	8	12	16	99	10
		%	100.0	4.5	2.7	2.0	3.0	4.0	24.7	2.5
	75～79 歳	人	568	20	22	23	7	24	143	9
		%	100.0	3.5	3.9	4.0	1.2	4.2	25.2	1.6
	80～84 歳	人	580	18	19	9	14	18	154	12
		%	100.0	3.1	3.3	1.6	2.4	3.1	26.6	2.1
	85～89 歳	人	407	12	9	9	8	17	106	10
		%	100.0	2.9	2.2	2.2	2.0	4.2	26.0	2.5
	90 歳以上	人	142	5	8	4	4	5	49	4
		%	100.0	3.5	5.6	2.8	2.8	3.5	34.5	2.8
要 介 護 認 定 の 有 無 別	受けたことがある	人	658	36	35	20	16	25	124	11
		%	100.0	5.5	5.3	3.0	2.4	3.8	18.8	1.7
	受けたことがない	人	1686	48	50	39	41	60	500	19
		%	100.0	2.8	3.0	2.3	2.4	3.6	29.7	1.1
	覚えていない	人	25	1	2	0	0	1	10	1
		%	100.0	4.0	8.0	0.0	0.0	4.0	40.0	4.0

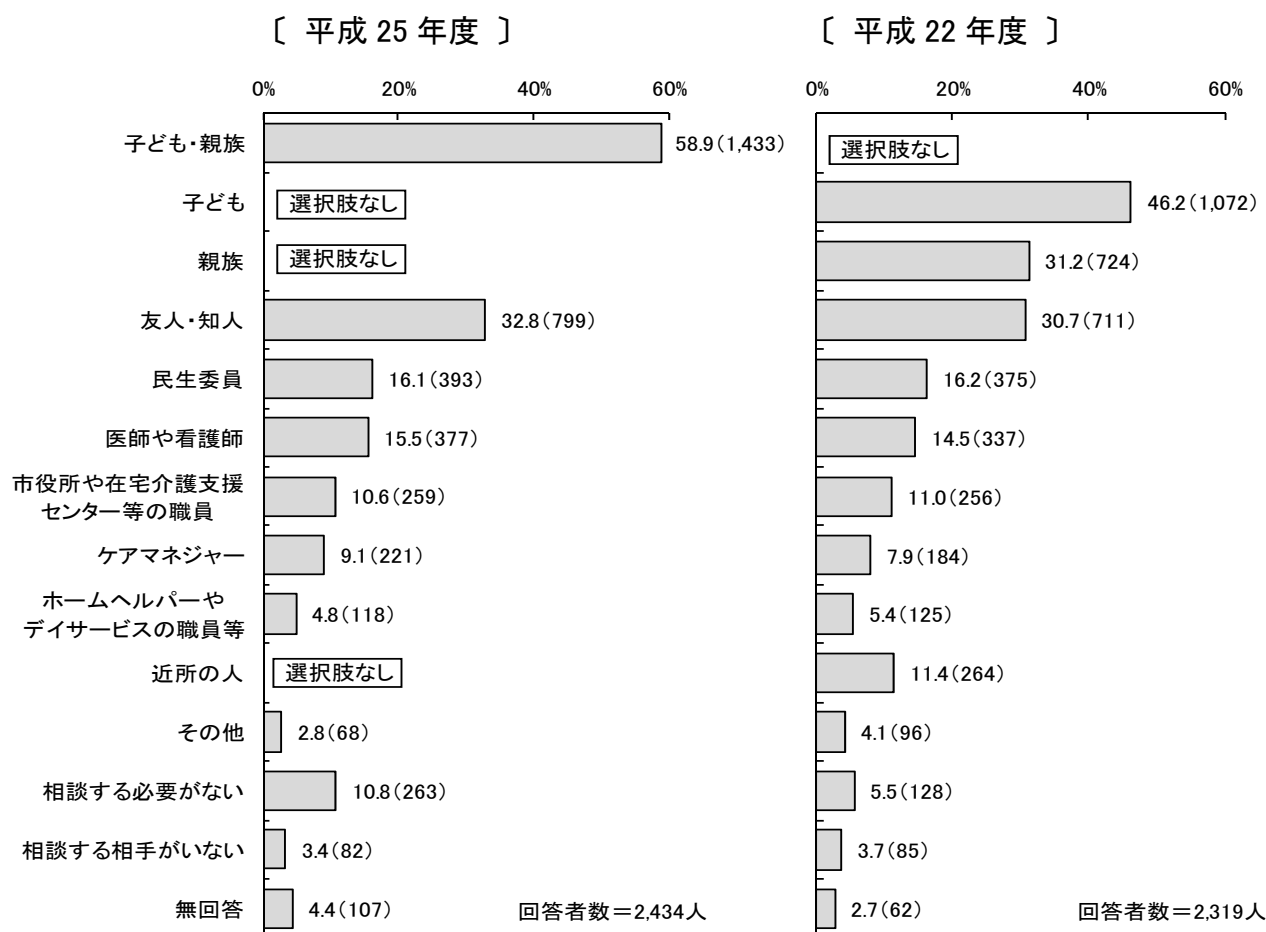
※網掛けは、全体の値を上回った選択肢

性別、年齢別、要介護認定の有無別のいずれにおいても、「健康」を不安・悩み・心配事としてあげている割合は第1位である。「緊急時の対応（病気、地震などの災害等）」については、性別では女性、年齢別では70歳以上で不安であると回答している割合が高い。

(2) 不安・悩み・心配事の相談相手(項目9)

不安・悩み・心配事の相談相手について、該当する番号に○をつけてください。
(あてはまるものすべて)

図表 3-50 不安・悩み・心配事の相談相手(複数回答)



※平成25年度調査の「ホームヘルパーやデイサービスの職員等」は、平成22年度調査では「ホームヘルパーなどの介護保険事業者の職員」

※「子ども」「親族」「近所の人」は平成25年度調査にはない選択肢

※「子ども・親族」は平成22年度調査にはない選択肢

不安・悩み・心配事の相談相手としては、「子ども・親族」が58.9%でもっとも高く、次いで、「友人・知人」が32.8%、「民生委員」「医師や看護師」「市役所や在宅介護支援センター等の職員」が1割台からあげられている。

また、「相談する相手がいない」割合は3.4%と低く、独居ではあるが周囲に相談相手がいることが示唆される。

「その他」の相談相手としては、「福祉公社」「大家・管理人」「ご近所の方」「ケースワーカー」「仕事関係の人」「市の法律相談」などがあげられている。

平成22年度調査と比較すると、「相談する必要がある」は5.3ポイント増加している。

図表 3-51 不安・悩み・心配事の相談相手

			合 計	子 ども ・ 親 族	友 人 ・ 知 人	民 生 委 員	医 師 や 看 護 師	市役所や在宅介護支 援センター等の職員	ケ ア マ ネ ジ ャ ー
全 体		人	2,434	1,433	799	393	377	259	221
		%	100.0	58.9	32.8	16.1	15.5	10.6	9.1
性 別	男性	人	645	277	144	97	103	83	53
		%	100.0	42.9	22.3	15.0	16.0	12.9	8.2
	女性	人	1,789	1,156	655	296	274	176	168
		%	100.0	64.6	36.6	16.5	15.3	9.8	9.4
年 齢 別	65～69 歳	人	336	139	139	47	36	24	11
		%	100.0	41.4	41.4	14.0	10.7	7.1	3.3
	70～74 歳	人	401	212	149	61	51	46	19
		%	100.0	52.9	37.2	15.2	12.7	11.5	4.7
	75～79 歳	人	568	332	203	95	94	63	34
		%	100.0	58.5	35.7	16.7	16.5	11.1	6.0
	80～84 歳	人	580	371	187	99	96	66	51
		%	100.0	64.0	32.2	17.1	16.6	11.4	8.8
	85～89 歳	人	407	277	89	71	70	48	69
		%	100.0	68.1	21.9	17.4	17.2	11.8	17.0
	90 歳以上	人	142	102	32	20	30	12	37
		%	100.0	71.8	22.5	14.1	21.1	8.5	26.1
要 介 護 認 定 の 有 無 別	受けたことがある	人	658	412	187	112	144	113	197
		%	100.0	62.6	28.4	17.0	21.9	17.2	29.9
	受けたことがない	人	1,686	997	602	273	222	136	22
		%	100.0	59.1	35.7	16.2	13.2	8.1	1.3
	覚えていない	人	25	6	4	5	3	5	0
		%	100.0	24.0	16.0	20.0	12.0	20.0	0.0

			合 計	ホームヘルパーやデイ サービスの職員等	その他	相談する 必要がない	相談する 相手がいない	無回 答
全 体		人	2,434	118	68	263	82	107
		%	100.0	4.8	2.8	10.8	3.4	4.4
性 別	男性	人	645	31	16	101	39	40
		%	100.0	4.8	2.5	15.7	6.0	6.2
	女性	人	1,789	87	52	162	43	67
		%	100.0	4.9	2.9	9.1	2.4	3.7
年 齢 別	65～69 歳	人	336	1	12	49	20	19
		%	100.0	0.3	3.6	14.6	6.0	5.7
	70～74 歳	人	401	9	7	48	20	16
		%	100.0	2.2	1.7	12.0	5.0	4.0
	75～79 歳	人	568	16	15	60	17	28
		%	100.0	2.8	2.6	10.6	3.0	4.9
	80～84 歳	人	580	34	20	62	13	22
		%	100.0	5.9	3.4	10.7	2.2	3.8
	85～89 歳	人	407	39	13	30	9	15
		%	100.0	9.6	3.2	7.4	2.2	3.7
	90 歳以上	人	142	19	1	14	3	7
		%	100.0	13.4	0.7	9.9	2.1	4.9
要 介 護 認 定 の 有 無 別	受けたことが ある	人	658	99	19	49	18	11
		%	100.0	15.0	2.9	7.4	2.7	1.7
	受けたことが ない	人	1,686	16	48	203	61	66
		%	100.0	0.9	2.8	12.0	3.6	3.9
	覚えていない	人	25	1	1	0	3	4
		%	100.0	4.0	4.0	0.0	12.0	16.0

性別、年齢別、要介護認定の有無別のいずれにおいても、第1位は「子ども・親族」である。年齢別の90歳以上と要介護認定の有無別の受けたことがある人の第2位は「ケアマネジャー」で、それ以外では「友人・知人」となっている。

性別では、男性は「相談する必要がない」「相談する相手がいない」割合が高く、女性は「子ども・親族」「友人・知人」の割合が高くなっている。

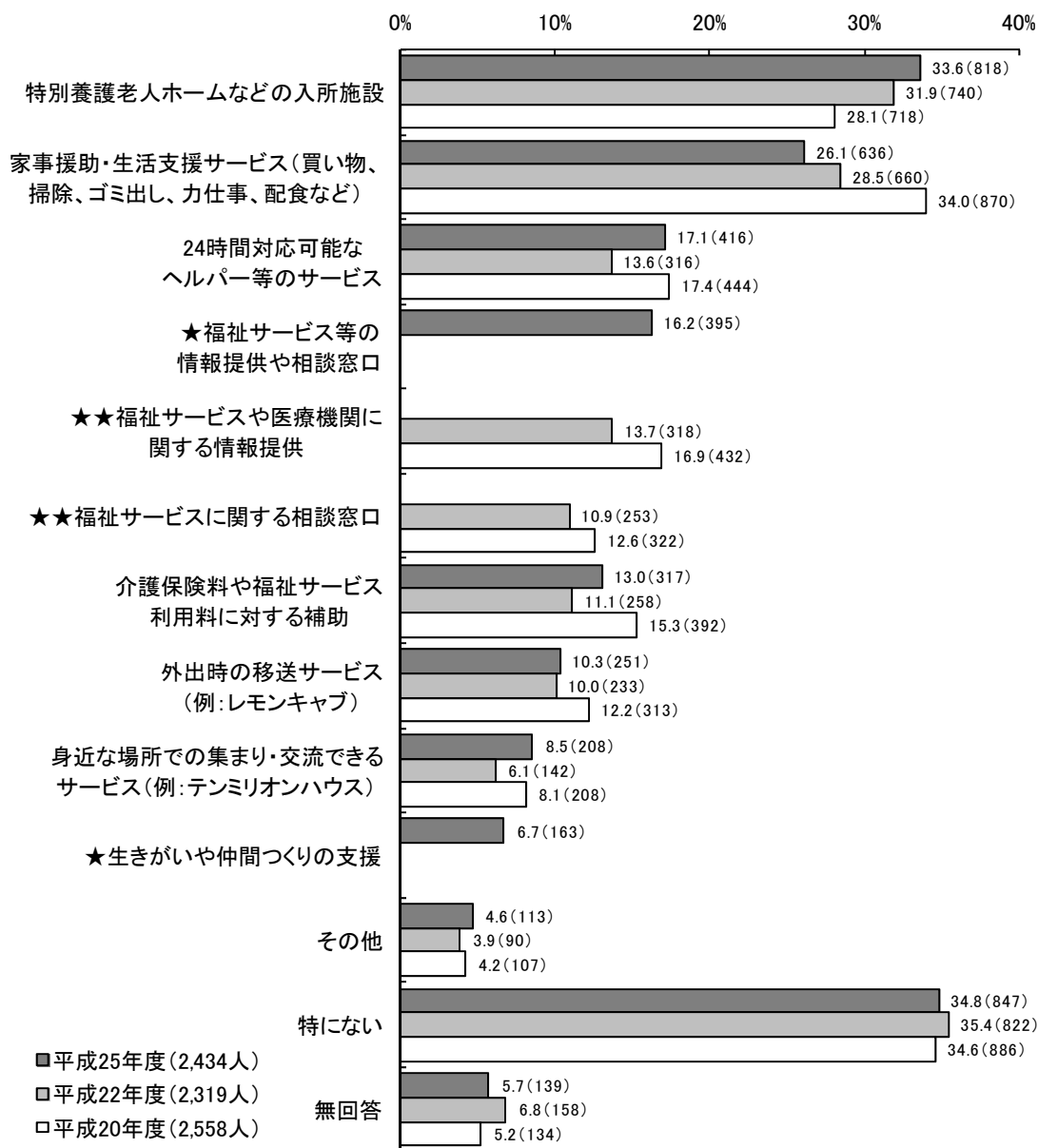
年齢別では、年齢層が高くなるほど「子ども・親族」の割合が高くなっている。

4. 市への要望について

(1) 市の高齢者施策として充実してほしいもの(項目10)

市の高齢者施策として充実してほしいものについて、該当する番号に○をつけてください。
(あてはまるものすべて)

図表 3-52 市の高齢者施策として充実してほしいもの(複数回答)



※★は25年度調査のみの選択肢、★★は平成20・22年度調査の選択肢

※平成25年度調査の「家事援助・生活支援サービス(買い物、掃除、ゴミ出し、力仕事、配食など)」は、平成20・22年度調査では「介護保険以外で利用できる在宅サービス」

※平成25年度調査の「24時間対応可能なヘルパー等のサービス」は、平成20・22年度調査では「夜間や24時間対応可能な相談・ヘルパー等のサービス」

※平成25年度調査の「身近な場所での集まり・交流できるサービス(例:テンミリオンハウス)」は、平成20・22年度調査では「テンミリオンハウスのようなミニデイサービス」

市の高齢者施策として充実してほしいものは、「特にない」という回答が 34.8%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの入所施設」33.6%、「家事援助・生活支援サービス（買い物、掃除、ゴミ出し、力仕事、配食など）」26.1%となっている。

過去調査との比較では、平成 20 年度調査から 5 ポイント以上変動のあるものは、「特別養護老人ホームなどの入所施設」が 5.5 ポイント増加し、「家事援助・生活支援サービス（買い物、掃除、ゴミ出し、力仕事、配食など）」が 7.9 ポイント減少している。

図表 3-53 平成 25 年度『高齢者実態調査』『要支援・要介護高齢者実態調査』との比較

選択肢	独居高齢者 (2,434 人)	選択肢	一般高齢者 (1,141 人)	認定高齢者 (942 人)
家事援助・生活支援サービス（買い物、掃除、ゴミ出し、力仕事、配食など）	26.1%	介護保険以外の家事援助・生活支援サービス	28.7%	31.8%
24 時間対応可能なヘルパー等のサービス	17.1%	夜間や休日でも、病院のようにコールボタンを押すとステーションに繋がって相談や必要であればヘルパーが駆けつけるサービス	42.5%	44.2%
福祉サービス等の情報提供や相談窓口	16.2%	24 時間電話を受け付けて、悩みごとや相談を聞いてくれるサービス	10.1%	13.6%
外出時の移送サービス（例：レモンキャブ）	10.3%	レモンキャブやシルバーパスなどの外出支援	22.6%	26.9%
身近な場所での集まり・交流できるサービス（例：テンミリオンハウス）	8.5%	テンミリオンハウスのような身近な場所で集まり、交流できるサービス	11.6%	9.7%
生きがいや仲間づくりの支援	6.7%	いきいきセミナーや教養講座などの生きがいや仲間づくりの支援	15.8%	10.4%
その他	4.6%	その他	1.6%	3.3%
特にない	34.8%	特にない	13.2%	8.9%
無回答	5.7%	無回答	7.4%	11.8%

※比較できる選択肢のみ掲載している

※一般高齢者、認定高齢者については、『高齢者実態調査 要支援・要介護高齢者実態調査報告書』（平成 26 年 3 月）の 20 ページ及び 60 ページ参照のこと

※網掛けは、コメント部分の選択肢

平成 25 年度『高齢者実態調査』『要支援・要介護高齢者実態調査』と比較すると、最も差が大きい項目は「24 時間対応可能なヘルパー等のサービス」で、一般高齢者より 25.4 ポイント、認定高齢者より 27.1 ポイント低い結果となっている。理由としては、選択肢の表現が違うことが影響していると考えられる。

また、5 ポイント以上差のある項目は「外出時の移送サービス（例：レモンキャブ）」「特にない」である。

図表 3-54 市の高齢者施策として充実してほしいもの

			合 計	特別養護老人ホームなどの入所施設	家事援助・生活支援サービス	24時間対応可能なヘルパー等のサービス	福祉サービス等の情報提供や相談窓口	介護保険料や福祉サービス利用料に対する補助	外出時の移送サービス	身近な場所での集まり・交流できるサービス	生きがいや仲間づくりの支援	その他	特にない	無回答
全体		人	2,434	818	636	416	395	317	251	208	163	113	847	139
		%	100.0	33.6	26.1	17.1	16.2	13.0	10.3	8.5	6.7	4.6	34.8	5.7
性別	男性	人	645	174	124	79	101	67	44	44	40	31	268	39
		%	100.0	27.0	19.2	12.2	15.7	10.4	6.8	6.8	6.2	4.8	41.6	6.0
	女性	人	1,789	644	512	337	294	250	207	164	123	82	579	100
		%	100.0	36.0	28.6	18.8	16.4	14.0	11.6	9.2	6.9	4.6	32.4	5.6
年齢別	65～69 歳	人	336	115	75	59	59	39	20	31	29	19	126	12
		%	100.0	34.2	22.3	17.6	17.6	11.6	6.0	9.2	8.6	5.7	37.5	3.6
	70～74 歳	人	401	160	84	66	68	57	35	33	28	28	127	19
		%	100.0	39.9	20.9	16.5	17.0	14.2	8.7	8.2	7.0	7.0	31.7	4.7
	75～79 歳	人	568	203	149	97	114	81	70	55	49	23	186	33
		%	100.0	35.7	26.2	17.1	20.1	14.3	12.3	9.7	8.6	4.0	32.7	5.8
	80～84 歳	人	580	179	162	94	90	74	60	54	35	25	201	40
		%	100.0	30.9	27.9	16.2	15.5	12.8	10.3	9.3	6.0	4.3	34.7	6.9
	85～89 歳	人	407	122	120	77	45	47	46	26	13	15	151	27
		%	100.0	30.0	29.5	18.9	11.1	11.5	11.3	6.4	3.2	3.7	37.1	6.6
	90 歳以上	人	142	39	46	23	19	19	20	9	9	3	56	8
		%	100.0	27.5	32.4	16.2	13.4	13.4	14.1	6.3	6.3	2.1	39.4	5.6
要介護認定の有無別	受けたことがある	人	658	224	216	145	104	112	109	64	47	33	193	42
		%	100.0	34.0	32.8	22.0	15.8	17.0	16.6	9.7	7.1	5.0	29.3	6.4
	受けたことがない	人	1,686	577	408	266	281	198	141	142	113	76	608	84
		%	100.0	34.2	24.2	15.8	16.7	11.7	8.4	8.4	6.7	4.5	36.1	5.0
住宅の状況別	持ち家（一戸建て）	人	25	3	3	1	2	2	0	1	0	1	18	0
		%	100.0	12.0	12.0	4.0	8.0	8.0	0.0	4.0	0.0	4.0	72.0	0.0
	持ち家（マンションなどの集合住宅）	人	806	260	255	158	124	92	101	69	54	37	284	43
		%	100.0	32.3	31.6	19.6	15.4	11.4	12.5	8.6	6.7	4.6	35.2	5.3
	民間賃貸住宅（一戸建て）	人	543	172	164	120	102	59	49	54	40	30	171	29
		%	100.0	31.7	30.2	22.1	18.8	10.9	9.0	9.9	7.4	5.5	31.5	5.3
	民間賃貸住宅（マンション、アパートなどの集合住宅）	人	27	14	7	6	6	3	3	1	1	4	3	1
		%	100.0	51.9	25.9	22.2	22.2	11.1	11.1	3.7	3.7	14.8	11.1	3.7
	都営・市営・公団・シルバーピアなどの公的住宅	人	411	129	65	47	69	57	22	37	28	23	171	18
		%	100.0	31.4	15.8	11.4	16.8	13.9	5.4	9.0	6.8	5.6	41.6	4.4
	その他	人	615	232	136	76	92	101	74	45	38	18	210	44
		%	100.0	37.7	22.1	12.4	15.0	16.4	12.0	7.3	6.2	2.9	34.1	7.2
	その他	人	16	7	5	4	2	2	2	2	1	1	5	0
		%	100.0	43.8	31.3	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	6.3	6.3	31.3	0.0

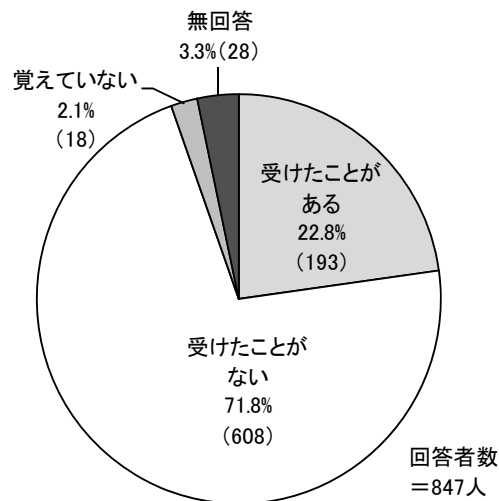
※網掛けは、全体の値を上回った選択肢

性別では女性に、年齢別では75～79歳の年齢層に充実してほしい割合が高くあらわれている。「特別養護老人ホームなどの入所施設」については、年齢が低い層に要望する割合が高く、70～74歳では約4割が望んでいる。

また、要介護認定の有無別では、要介護認定を受けたことがある人は、「家事援助・生活支援サービス」「24時間対応可能なヘルパー等のサービス」「介護保険料や福祉サービス利用料に対する補助」「外出時の移送サービス」「身近な場所での集まり・交流できるサービス」などの具体的な在宅サービスの充実について、要介護認定を受けたことがない人は、「特別養護老人ホームなどの入所施設」「福祉サービス等の情報提供や相談窓口」などの施設整備や相談・情報提供の充実を求める割合が全体より高い結果となった。

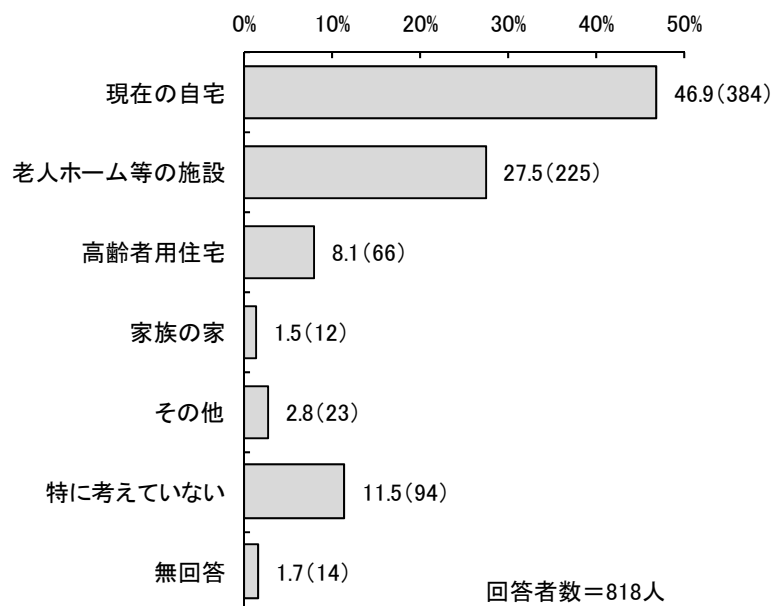
住宅の状況別にみると、住宅の状況に関わらず「特別養護老人ホームなどの入所施設」を希望している人は3割を超え、一定の要望があることが示唆される。

図表 3-55 「特にない」と回答した人の要介護認定の有無(単数回答)



市の高齢者施策として充実してほしいものとして、「特にない」と回答した 847 人について要介護認定の有無別にみると、「要介護認定を受けたことがない」割合が回答者の 7 割を占め、自立度の高い層が回答していることが示唆される。

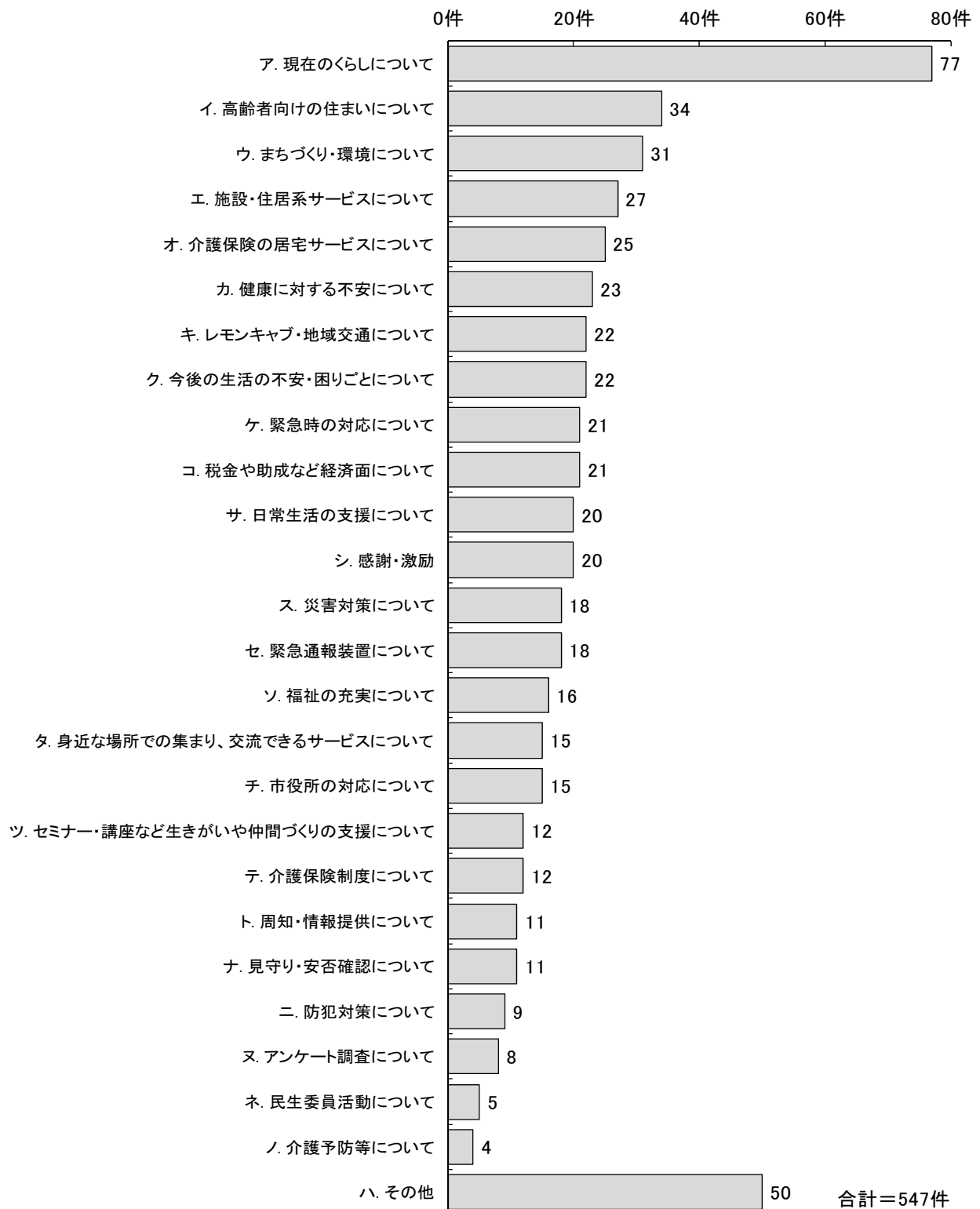
図表 3-56 「特別養護老人ホームなどの入所施設」と回答した人が介護が必要になったときの住まいとして希望しているところ(単数回答)



市の高齢者施策として充実してほしいものとして、「特別養護老人ホームなどの入所施設」と回答した 818 人について、介護が必要となったときの住まい別にみると、介護が必要となった際は「現在の自宅」を希望している人の割合が高い。

(2) 自由意見(項目11)

図表 3-57 自由意見



以下は、調査票の最後に記載された自由意見の抜粋である。記載された原文を一部要約して掲載している。

ア. 現在の暮らしについて(77件)

- ・今のところ、1人で買物、掃除、調理など出来ているので、心配事は特にありません。
- ・近所の人達とのつきあいがあって、住み良いと思っている。
- ・自分なりに生活を持続しており、できるだけ世話にならず、自分で対処を考えていくことにしている。
- ・現在は自立していますが、身寄りがないので、この地域で将来公的なサービスのお世話になるかもしれません。

イ. 高齢者向けの住まいについて(34件)

- ・高齢者住宅に入居希望だが、どのような手続きをすればよいのか。
- ・認知症のグループだけではなく、元気な年寄りが少人数で支え合いながら暮らせる住まいが欲しい。
- ・マンションや一軒家でも、年寄りが安心出来る人と一緒に住めるようなシステム等を作れないか。マンションや一般家庭でも一人暮らしの人には部屋が余っている場合がある。その活用として、また安心でもあるし。
- ・公営住宅に入居したい。優先順位として、武蔵野市の在住年数や落選回数を考慮して欲しい（何回も申し込みしているが落選している・・・）。
- ・公営の住宅を増やして、家賃が安いようにして欲しい。住みやすくして欲しい。

ウ. まちづくり・環境について(31件)

- ・公園等にトイレがほしい（東町側にない）。散歩時に困る。市民の健康管理の面等で、ぜひトイレを作ってほしい。
- ・コミセンにエレベーターをつけて欲しい。
- ・歩道と車道を分離してほしい。
- ・高架下の利用を考えてほしい。

エ. 施設・住居系サービスについて(27件)

- ・特養に入所する前の段階で入所できる老人ホームがあるといい。民間の有料老人ホームは高額すぎる。
- ・特別養護老人ホーム入所希望が多く、待っている方が多いと聞きます。増やして下さい。
- ・低価格で入所できるホームをたくさん作って下さい。入所予備人として切にお願いします。
- ・年をとった方のためのグループホームができたなら良い。これを充実していただきたい。
- ・要支援程度でも緊急時に使うことが出来るショートステイ施設を増やして欲しい。

オ. 介護保険の居宅サービスについて(25件)

- ・ 自宅に住み続けるためには、家事援助をもう少し充実させてほしい。以前は週2回家事援助を受けていたが、1回に減らされてしまったので、あと1回は自費で援助を受けている。
- ・ 家事援助のヘルパーさんに来てもらっているが、頼めない事が多すぎる。自分ができない事をもう少し手伝ってもらいたい。
- ・ ヘルパーさんの時間が短い(1時間)。延長するとお金がかかる。何をするにもお金がかかりすぎる。
- ・ 介護夜間ヘルパーの充実。特に一人介護の精神面(安心して介護出来る事)を助けてほしい。

カ. 健康に対する不安について(23件)

- ・ 健康が維持出来なくなった時の毎日の暮らしが気になります。
- ・ 武蔵野市の我が家で健康に生涯を過ごしたいと思っていますが、認知症等になった場合は、しかるべき施設に入居して手当てして欲しいと思います。

キ. レモンキャブ・地域交通について(22件)

- ・ レモンキャブは緊急時にも対応できるように。
- ・ 車椅子を利用して外出しているが、レモンキャブでは、1回短時間の利用なので病院など2か所はまわれず、ついでに買物をしたくても出来ない。もう少し緩やかな利用が出来ないものか。
- ・ 外出時に転倒することが心配なので、何か移動手段がないか。
- ・ ムーバスの運行時間を少しでもよいから今より早く、今より遅くまで希望する。

ク. 今後の生活の不安・困りごとについて(22件)

- ・ 今のところはまだ1人で何とかやっているが、いつ何が起こるか分からない年齢になっているので不安がないわけではないが・・・。
- ・ 今現在は働いている。75歳まで働きたい。体力と会社がどうか。働けなくなった時、年金だけではアパートの支払いが出来ない。その時、公営の住宅などに入る事が出来るのか。

ケ. 緊急時の対応について(21件)

- ・ 自費を支払ってもいいので、24時間のサポート体制を作り上げて下さい。
- ・ 昼間はまだしも、夜中に急に具合が悪くなるなど、緊急な事が起こるのが一番心配。
- ・ 緊急時の救急病院が日赤病院だけしかないのが不安です。日赤も受け入れ体制が充分ではありません。不安です。
- ・ 緊急時関係機関とありますが、現段階では横の連携が機能しているように受け取る事が出来ません。ぜひ、横の関係の機能を希望します。

コ. 税金や助成など経済面について(21件)

- ・ いざ介護を受けようとする経済的負担が大きい。
- ・ 高齢者の賃貸住宅の家賃補助をしていただけるとありがたいです。

- ・生活保護を受けているが、今年から減らされて困っている。

サ. 日常生活の支援について(20件)

- ・家事サービスのボランティア等の紹介を広報に出して欲しい。
- ・病気に対応した弁当を配達してくれる業者が市内にあるといい。

シ. 感謝・激励(20件)

- ・当市に移り住みまして 10 年になります。医療、福祉等に関して充実してきている事を感じて感謝しております。今後とも、幼子、若者、老人に心配りのある政治をしていただけたら幸いと存じます。
- ・武蔵野市は環境(自然)にも恵まれ福祉関係にも配慮される等、快適で住みやすい町です。
- ・市の施策に満足しています。
- ・ボランティアで活躍して下さる各位に感謝申し上げたい。人間は 1 人では生きられない。

ス. 災害対策について(18件)

- ・万一の事態(火事・地震被害・病気)発生の時、自力で脱出できない時の連絡方法等を事前に教えていただくと安心できます。
- ・近隣との付き合いがないので、大きな震災などがあった時は不安です。
- ・地震に備え、一戸建て住宅などにも子ども達が避難できるように、耐震改修済みのステッカーを貼ってはどうか。
- ・金額がかかっても雪かき等をして下さる方が欲しい。

セ. 緊急通報装置について(18件)

- ・急に動けなくなったりした時のために、せめて 80 歳以上の独居の人には緊急時のベルを持たせてほしい。
- ・一人暮らしの場合、倒れても、そばに人がいないので孤独死となる不安があります。暮らしの見守りシステムがあれば知りたいと思います。身体が不自由になった場合、心配なく地域で暮らし続けていけるシステムを充実させていただきたいと考えています。

ソ. 福祉の充実について(16件)

- ・99 歳になっても 1 人で一通りのことは出来るが、福祉の手が全く伸びてこないのは良くない。100 歳になって一度お祝いに来てくれるよりは、毎日の生活に支援があっても良いのではないか。
- ・介護用品売り場に相談窓口の手引きなどがあればいいと思います。
- ・手すりや段差など、介護保険の申請をする前に予防として付けていただけないだろうか。
- ・リハビリなどを安く提供出来るサービスが欲しい。市の事業としてやって欲しい(市の施設で気楽に出来る場が欲しい)。
- ・高齢者対策も必要だと思うが、子育て支援に力を入れてほしい。

- ・若い人達と一緒に出来ることを考えて欲しい。テレビ、パソコン、インターネット、携帯等に関する説明（楽しみ方等）をして下さる方に来て欲しい。

タ. 身近な場所での集まり、交流できるサービスについて(15件)

- ・同世代の方々と交流できる場所が欲しい。
- ・高齢者が気軽に立ち寄れる場所が欲しい。
- ・テンミリオンハウスの仲間に入りづらい。地域の利用で固まっていて、新しい人にとっては入りづらい雰囲気があるので残念。

チ. 市役所の対応について(15件)

- ・PDCA（プラン・実行・チェック・アクション）がよくまわっていない。
- ・福祉サービス等の窓口が土日にも開いていると良い。
- ・市の出先機関の市政サービスをもっと近くに増やしてほしい。
- ・武蔵野市は高齢者支援をよくやってくれています。対応も親切です。
- ・独居の方々には市役所からの訪問が必要ではないかと思われます。話など色々と聞き取り調査をして欲しいと感じます。

ツ. セミナー・講座など生きがいや仲間づくりの支援について(12件)

- ・ふだん会話する友人が近所に少ないので、そうした人がいたらいいと思う。老人だけを集めるのではなく、若い人たちと交流したい。
- ・高齢者支援がある武蔵野市に住み大変安心しています。ボランティアで他の老人の方達のお手伝いができたらと思っています。

テ. 介護保険制度について(12件)

- ・介護保険料の支払い方法について、もっと細かく支払えた方が良い（金額が大きいので大変）。
- ・現在、介護認定申請中ですが、地域包括センターの人手が足りないらしく時間がかかっている。
- ・介護等必要な時、すぐに活用出来るようなシステムにして欲しい。手続きが簡素化されればもっと良い。
- ・介護保険を支払っていますので、介護保険を使っていない方々に、何らかのサービスをしていただきたい。

ト. 周知・情報提供について(11件)

- ・病院や医院について、どこに行ったらよいか分からない。市の福祉サービス等も分からないので、これから年を取るのに不安です。色々教えてほしい。
- ・集合住宅では、お隣さんともあまり話をしない、出来ない方も多くいます。市からの色々なメッセージをたくさん出していただけるといいのでは、と考えます。

ナ. 見守り・安否確認について(11件)

- ・あまり外に出ず会話の少ない独居高齢者には小まめな声掛け、訪問が必要かと思います。地域福祉等、関係機関と連携を取りながらの対応が望まれます。問題の早期発見にもつながると思います。
- ・あまり人と交流しないので、安否確認を定期的にしてほしいと思います。

ニ. 防犯対策について(9件)

- ・自宅周辺は夜は大変暗いので、街灯を増やして欲しい。
- ・地区には独居高齢者が多く、治安も何となく悪くなっているように思えるので、パトロールを増やして欲しい。

ヌ. アンケート調査について(8件)

- ・調査結果のフィードバックをしてほしい。
- ・「独居高齢者実態調査」の名称は、市役所内で使うのはかまわないが、当人たちへの文書への表現をもう少しやわらかくしてもらいたい。
- ・独居調査はすばらしい施策。これからも続けて欲しい。

ネ. 民生委員活動について(5件)

- ・民生委員の方々が後任の方にスムーズに引継ぎができるような体制にして欲しい(例えば報酬制にするなど)。
- ・民生委員の方々には、常々良くしていただき感謝いたしております。

ノ. 介護予防等について(4件)

- ・最後まで自分らしく自立した生活が希望です。介護予防にも力を入れて欲しいと思います。

ハ. その他(50件)

- ・町内会がないので協力の仕方を考えた方が良い。
- ・同じ高齢者でも、障害者とそうでない人は違うということを理解してほしい。
- ・無灯火自転車の取り締まりを強化して欲しい。

5. 調査を終えて

独居高齢者実態調査は3年に1度実施しているが、理由は2つある。1つは、本調査に携わる民生委員が3年に1度一斉改選となるため、改選後すぐに調査を行うことにより地域の高齢者を知る機会としていただくこと。もう1つは、介護保険事業計画が3年ごとの見直しとなるため、その基礎資料とするためである。

本調査の特徴として、二次調査は民生委員による訪問を行う点が挙げられる。直接対象者と対面することで要援護者の発見につながるため、郵送によるアンケート調査では把握出来ない情報の入手が可能となっている。

しかし一方で、対象者数増加に伴い訪問を行う民生委員の負担も増加しており、今後も訪問調査の形式を継続するのであれば、例えば調査項目の簡略化、対象者の要件（対象年齢の引き上げ）などの検討が必須である。また、調査対象者の約2割を占めるアンケート未返送者の中にも要援護者がいる可能性があるため、別途訪問などで確認を行う必要がある。

2014年4月に厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が発表した世帯数の将来推計によると、65歳以上の独居高齢者世帯の全国平均は2010年の9.6%から2035年には15.4%へ増加する。独居高齢者世帯の増加が見込まれる中、今後本調査の重要性はさらに増していくだろう。

本調査を遂行するにあたり、多忙な中、地域を知る機会であると積極的に訪問調査に協力していただいた民生委員の皆様、またアンケート調査・訪問調査にご協力いただいた市民の皆様に、この場を借り厚くお礼を申し上げます。

■ 資料編 ■



1. 調査票

(1) 第一次調査(郵便による調査)調査票

アンケート調査 回答用紙

該当する番号を○で囲んでください。

問1 あなたの現在の世帯状況についてお尋ねします。

あなたは、ひとりで住んでいますか。

- 1 ひとりで住んでいる。 → 問2へすすんでください。
- 2 親族と一緒に住んでいる。(二世帯住宅、同敷地内に親族が住んでいる場合を含む)
→ アンケートは終了です。裏面の住所・氏名等記入欄へ。

問2 問1で、「1 ひとりで住んでいる。」とお答えした方にお尋ねします。

市では、平成26年2月下旬から3月下旬にかけて、65歳以上のおひとり暮らしの方に対し、民生委員による訪問調査を予定しております。

訪問調査にご協力いただけますか。

- 1 訪問調査に協力する。
- 2 訪問調査を辞退する。

問3 市では、一人暮らしの高齢者の緊急時に備え、ご同意いただいた場合に限り、緊急時連絡先に関する情報をお預かりしています。お預かりした緊急連絡先は、関係機関（市関係部署、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、民生委員、消防署、その他公的機関など）が情報を共有します。

情報の提供にご同意いただけますか。

- 1 同意する。 → 緊急連絡先をご記入ください。
- 2 同意しない。

○ 緊急連絡先

住所	続柄
氏名	電話番号

アンケートは終了です。裏面の住所・氏名等記入欄へ

(裏面に続く)

○ 住所・氏名等記入欄 (下記の注意書きをお読みください)

住 所	武蔵野市 町 丁目 番 号 (マンション・アパート名)
(ふりがな) 氏 名	
電話番号※	自宅・携帯電話 () — ※電話番号は、訪問調査にご協力いただける方のみご記入ください。 ※なるべく平日の昼間に連絡の取れる電話番号をご記入ください。

< ご協力ありがとうございました。 >

この「アンケート調査 回答用紙」を同封の返信用封筒（市役所の住所が書いてある封筒です）に入れて、12月27日（金）までにご返送ください。

※切手は貼らずにそのままポストに投函してください。

※返信用封筒には差出人（あなた）の住所・氏名を記入する必要はありません。

(2) 第二次調査(民生委員による訪問調査)調査票

独居高齢者実態調査票

武蔵野市 健康福祉部 高齢者支援課

	調査日 月 日 ()		
	調査員		
	男	明治・大正・昭和	
	女	年 月 日	
		電話番号	

○ 緊急時の連絡先は決めていますか。

(1) 決めている  (2) 決めていない

1	住所	続柄
	氏名	電話番号
2	住所	続柄
	氏名	電話番号

○ かかりつけの病院・医院などがありますか。

(1) あ る (病院・医院名)  (2) な い

○ 緊急時などに備えて、関係機関（市関係部署、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、民生委員、消防署、その他公的機関など）が、上記の情報を共有することに承諾します。

署名
(代筆の場合は押印)

項 目		調 査 内 容
1	今現在の家族の 状況(子ども)に ついて	該当する番号に○をつけてください。(ひとつだけ) (1) いる (人) (2) いない
2	普段よく過ごす 場所について ※週1日以上	該当する番号に○をつけてください。(あてはまるものすべて) (1) 友人・知人宅 (2) 文化・市民施設(図書館、コミュニティセンター等) (3) 体育館・スポーツクラブ (4) デパート・スーパー等 (5) デイサービスセンター(介護保険施設) (6) テンミリオンハウス (7) その他 () (8) 特に利用する場所はない(ほとんど外出しない)
3	日常の交流相手 (普段よく話を したりする人) の有無について	該当する番号に○をつけてください。(あてはまるものすべて) (1) 子ども・親族 (2) 友人・知人 (3) その他 () (4) 特にいない *近所付き合いは・・・ ある ・ ない

項 目		調 査 内 容
4	介護保険申請をして認定を受けたことがありますか	該当する番号に○をつけてください。(ひとつだけ) (1) 受けたことがある (2) 受けたことがない (3) 覚えていない (1)の場合 → 要介護度はいくつですか（現在または直近） ①要支援 1 ②要支援 2 ③要介護 1 ④要介護 2 ⑤要介護 3 ⑥要介護 4 ⑦要介護 5 ⑧非該当 ⑨わからない (2)の場合 → 受けたことがない理由はなぜですか ①受ける必要がない ②介護保険のこと（仕組みや相談場所）がよくわからない ③受けるのが面倒 ④その他（ ）
5	介護が必要となった時、どこで介護を受けたいですか	該当する番号に○をつけてください。(ひとつだけ) (1) 現在の自宅 (2) 家族の家 (3) 老人ホーム等の施設 (4) 高齢者用住宅 (5) 特に考えていない (6) その他（ ）

[illegible]

項 目		調 査 内 容
8	不安・悩み・心配事について	該当する番号に○をつけてください。(あてはまるものすべて) (1) 健康 (2) 認知症 (3) 緊急時の対応 (病気、地震などの災害時) (4) 子ども・親族との関係 (5) 友人・知人・隣人との関係 (6) 住まいの維持・設備 (7) 経済状況 (年金等の収入、介護・医療費などの支出等) (8) 家族の健康・介護 (9) 財産やお金の管理、相続 (10) 日常の家事 (買い物・料理・掃除等) (11) 日常の交流相手、相談相手がいない (12) その他 () (13) 特になし
9	不安・悩み・心配事の相談相手について	該当する番号に○をつけてください。(あてはまるものすべて) (1) 子ども・親族 (2) 友人・知人 (3) 民生委員 (4) 市役所や在宅介護支援センター等の職員 (5) ケアマネジャー (6) 医師や看護師 (7) ホームヘルパーやデイサービスの職員等 (8) その他 () (9) 相談する必要がない (10) 相談する相手がいない

項 目		調 査 内 容
10	市の高齢者施策 として充実して ほしいものにつ いて	該当する番号に○をつけてください。(あてはまるものすべて) (1) 特別養護老人ホームなどの入所施設 (2) 家事援助・生活支援サービス (買物、掃除、ゴミ出し、力仕事、配食など) (3) 24時間対応可能なヘルパー等のサービス (4) 身近な場所での集まり・交流できるサービス (例：テンミリオンハウス) (5) 外出時の移送サービス (例：レモンキャブ) (6) 介護保険料や福祉サービス利用料に対する補助 (7) 生きがいや仲間づくりの支援 (8) 福祉サービス等の情報提供や相談窓口 (9) その他 () (10) 特にない
11	ご意見等	

平成25年度 武蔵野市独居高齢者実態調査報告書

平成26年6月 発行

発 行 武蔵野市役所 健康福祉部 高齢者支援課
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町 2-2-28
電話0422-60-1940（直通）
